

事務事業及び予算の執行実績

(令和2年度分「一部、令和3年度分を含む」)

静岡県立西部特別支援学校

様式目次

事務事業の概要	1
事務執行の根拠法令調	17
学校施設の概要	18
在籍生徒調	20
入学志願者及び入学者数調	21
卒業生の動向調	22
生徒の状況	23
預金調	25
郵券等受払調	26
材料品受払調	27
委託料等歳出予算執行状況節別集計表	28
委託料等歳出予算執行状況節別集計表	28
委託料に関する調	30
負担金支出調	34
建築工事調	36
公有財産調	38
借地借家等調	39
事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調	40
行政財産貸付・使用許可調	41
主要備品調	42
生産物受払調	43

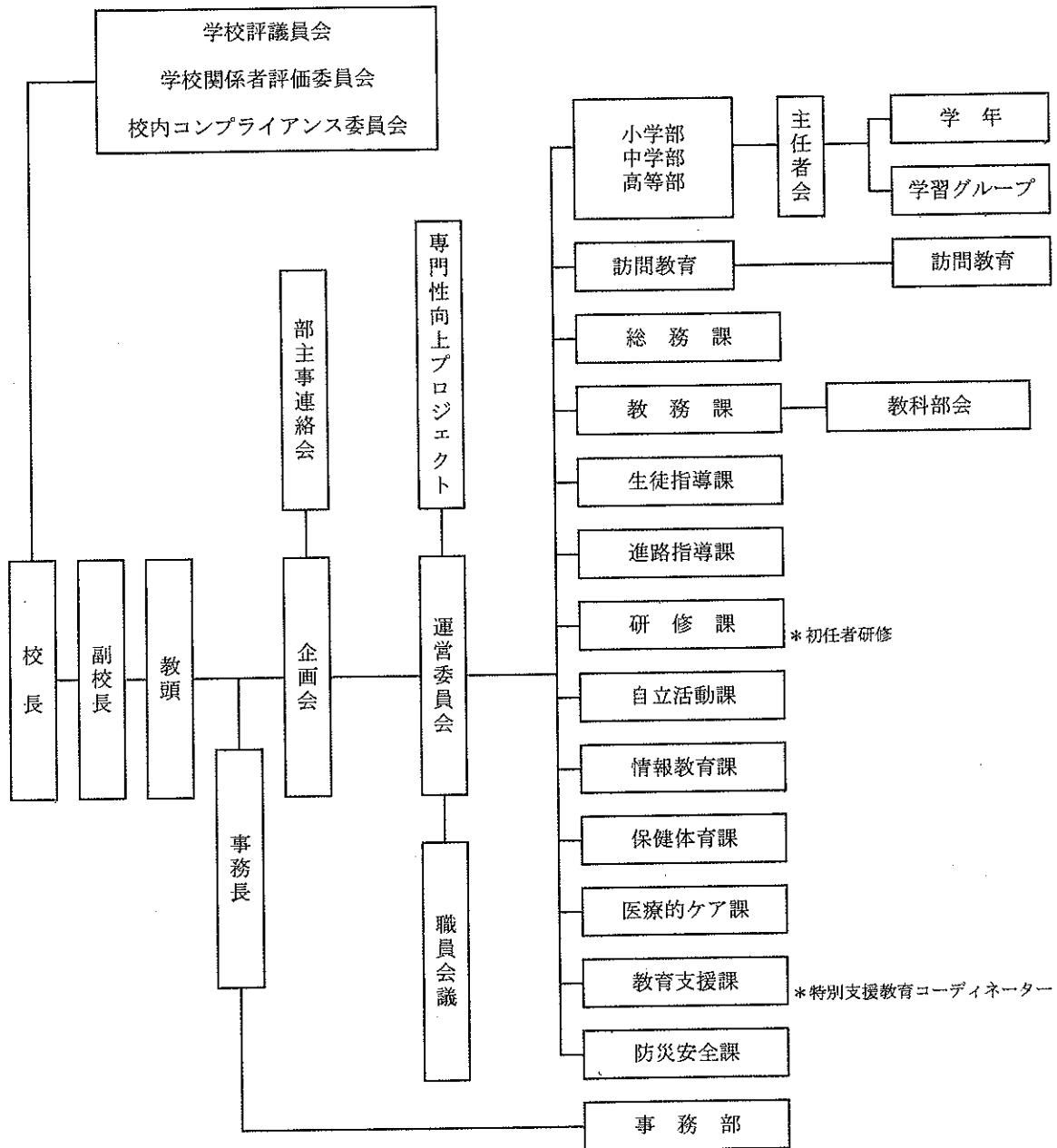
事務事業の概要

1 概況

(1) 学校の沿革

昭和 38 . 11 . 16	浜松療護園開園と同時に、園児童生徒を対象として、豊岡小学校、北星中学校の特殊学級として、療護園の一部と食堂において授業を開始する。
39 . 4 . 1	静岡県立静岡養護学校西部分校設立（浜松療護園の一部を仮校舎として発足）
39 . 4 . 14	開校式
39 . 7 . 9	本館第一期工事竣工
40 . 7 . 6	スクールバス運行開始
42 . 12 . 23	南校舎（第2棟）4教室増築完成
45 . 2 . 10	5周年記念及び増築校舎落成式挙行
46 . 3 . 25	第3棟校舎建築工事竣工
49 . 4 . 1	静岡県立西部養護学校として独立する。
52 . 8 . 5	第2棟とりこわし、新校舎工事着工
53 . 3 . 8	第2棟校舎建築工事竣工
54 . 4 . 1	養護学校の義務制施行、訪問教育実施
56 . 3 . 31	体育館竣工
57 . 2 . 3	第3棟東側 職員室、2教室増築
58 . 4 . 1	高等部設置、第1学年入学
59 . 2 . 29	高等部校舎建築工事竣工
61 . 3 . 8	高等部第1回卒業証書授与式挙行
62 . 3 . 7	高等部校舎増築工事竣工
平成 元 . 4 . 1	文部省指定特殊教育実験学校（訪問教育）（平成元年～3年 3年間指定）
5 . 1 . 25	配膳室建築工事竣工、業者委託による完全給食実施
7 . 8 . 25	図書室建築工事竣工
10 . 7 . 1	文部省指定特殊教育実験学校（医療的ケア）（平成10年～11年 2年間指定）
11 . 4 . 1	高等部訪問教育実施
12 . 4 . 1	「特殊教育における福祉・医療との連携に関する実践研究」の継続指定
13 . 4 . 2	文部科学省指定「養護学校における医療的ケアに関するモデル事業」 文部科学省指定特殊教育調査研究協力校 「地域における交流活動の充実に関する調査研究」 （平成13年度～14年度 2年間指定）
14 . 1 . 18	県の委託NPOから看護師が2人派遣される。
15 . 4 . 16	医療的ケアに県の委託NPOから看護師2人が派遣される。
16 . 4 . 1	聖隷浜松病院の小学部・中学部訪問教育開設
16 . 4 . 22	医療的ケアに西部地区の県の委託NPOから看護師3人派遣される。
17 . 4 . 1	2学期制実施 医療的ケアに看護師が特別非常勤講師として3人配置される。
18 . 4 . 1	おおぞら療育センターの高等部訪問教育開設 医療的ケアに看護師が特別非常勤講師として4人配置される。
20 . 4 . 1	校名を静岡県立西部特別支援学校に変更
27 . 4 . 1	医療的ケアに看護師が特別非常勤講師として5人配置される。
29 . 3 . 14	新校舎建築工事竣工
29 . 4 . 1	移転地にて業務開始となる。
29 . 4 . 1	医療的ケアに看護師が特別非常勤講師として6人配置される。

(2) 組織図



各種委員会	教育課程検討委員会 校内就学支援委員会 教科書選定委員会 人権教育及びいじめ対策委員会
	スクールバス委員会 研修推進委員会 情報セキュリティ委員会 学校保健委員会 学校給食委員会 アレルギー対応委員会
	医療的ケア検討委員会 「交流箱」を活用した交流及び共同学習委員会 防災対策委員会 道徳教育推進委員会
	入学者選考委員会 業者選定委員会 職員安全衛生委員会 交通安全促進委員会 施設開放委員会

2 目指す学校像

(1) 教育目標

「豊かで明るく健やかな子」

自ら学び自ら表現し、自立と社会参加を実現できる人

- ア 豊かな自分の夢の実現に向けて主体的に学習する 【知】
- イ 明るく仲良く、相手の立場を尊重した生活をする 【徳】
- ウ 健やかな心と体をつくり、生活習慣を整える 【体】

(2) 目標具現化の柱

- ア 安全・安心な児童生徒の学習・教育環境づくり
- イ 児童生徒の主体的な学びと生きる力を育む授業づくり
- ウ 保護者、地域、関係機関と連携、協働した学校づくり
- エ 教職員が生き生きと働くための環境づくり

3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等

- 評価基準
- A=十分目標を達成することができた
 - B=おおむね目標を達成することができた
 - C=あまり目標を達成することができなかった
 - D=ほとんど目標を達成することができなかった

(1) 令和2年度の取組目標への評価及び成果と課題（重点目標はゴシック体で記載）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア ・児童生徒の人権を守る教育を充実	・自己的人権目標を意識し、児童生徒の人権を守ることを意識して接することができた教員100%	AB評価 100%	A	・6月の学年会（職員会議、級外の集まり）で、個人の人権目標を決めてもらった。7、10、2月に同じ会議で取り組み状況の反省をもらった。話し合いの内容は、人権教育及びいじめ対策委員会（年2回）にて、学年主任から報告をもらった。 ・人権チェックシートの集計結果の報告と評価の低かった項目についての改善案を提案することができた。 ・縦割りのグループの話し合いで、いろいろな先生方の人権に対する意識をグループ内の職員で共有できた。
・非常時・災害時の対応能力を向上	・防災運用計画を基に話を進め、自分の動きが理解できた教員100%	AB評価 98%	A	・訓練の流れを事前に確認することによって、動きが理解できた教員が増えた。感染症対策を考慮した訓練の形が見えてきた。避難訓練の形、避難経路については改善していく。 ・登下校中の南海トラフ地震臨時情報発表時の対応については、防災運用計画に掲載した。南海トラフ地震臨時情報発表の対応については、防災会議、緊急時下校訓練の事前確認及び訓練を通して臨時情報発表時の対応方法について理解が深まった。避難の形の変更により、緊急時下校の形を改善していく。
	・全教職員対象の心肺蘇生法講習会を実施する。グループ分けを工夫して、全員が実技を実施できるようにする。	AB評価 100%		

	<ul style="list-style-type: none"> ・発作やカニューレ抜去など、緊急時対応訓練の実施（全体1回、学部2回） 	<p>98.8% (実施後アンケート)</p> <p>100% (2回目実施後アンケート)</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学部ごとに緊急時対応訓練を行った。「緊急事態に必要な対応をすることができると思いますか」というアンケートに「いいえ」と答えた教員のいる学部では、もう一度訓練を実施することで、「緊急時に必要な対応ができる」と回答する教員100%を達成することができた。来年度も緊急時に備え、起こり得る場面を想定して実践的な訓練を実施したい。
<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が安全・安心に生活することができ、活動しやすい教育環境を整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態に合った食形態の提供100% ・食堂の環境設定ができたと回答する教員100% 	<p>AB評価 99%</p> <p>AB評価 98%</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、児童生徒の食形態について一覧表にし、教職員がいつでも閲覧可能な状況にしておくようにする。摂食指導に関する個々の支援についても一覧表に載せ、情報の共有を図る。 ・ソーシャルディスタンスを保ったり、対面での給食を避けたり、できる限り環境を整えることができた。一方で給食は楽しい場であるので、つい私語をしてしまうことがあった。コロナ禍の中、感染症対策を行いつつも、楽しい給食の時間になるような環境づくりも検討していく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・研修を受け、医療的ケアについての知識を深めることができたと回答する教員100% ・ヒヤリハットの情報を聞き自分の指導に活かすことができたと回答する教員100% 	<p>AB評価 97%</p> <p>AB評価 96%</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全体会は紙面で実施し、学部会ワンポイントレッスンでは、ケア項目ごとにポイントを絞って伝えることで、医ケアの児童生徒に関わることの少ない教員にも分かりやすく伝えることができた。来年度は全職員に周知し、医療的ケアについての知識を深め安全にケアができるようにしたい。 ・ヒヤリハットがあったときには、状況や今後の対策を教員に周知して情報共有を行い、医療的ケアの児童生徒に関わる教員以外の指導にも活かせるように伝え方を工夫した。ヒヤリハットが謝罪報告のように感じるという意見があったが、ヒヤリハットの意味を年度初めに全職員に伝えた上で、今後もヒヤリハットがあったときには、医ケアを担当する教員だけでなく、全教員の指導に生かせるような伝達をしていきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・新任者、初任者のオリエンテーション、自立活動研修の内容を理解した職員100% 	<p>AB評価 95%</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・実技を交えた研修が効果的だった。 ・運営方法（経験年数、グループ編成等）についての意見があった。必要な知識・技能、研修目的のみえる化を図り、主体的に研修できること、現場に生かすことができるように今後も工夫していく。個人レベルだけでなくチームとして、また安定して継続できるようにしていく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・学部ごとの施設設備点検月1回実施 ・備品の現有確認年1回実施 ・施設設備における事故0 	<p>AB評価 99%</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・点検を通して、施設・設備の不具合箇所の確認を行い、計画的な改善につなげることができた。今年度は特にロッカー等の耐震固定を重点的に行った。今後も優先順位を考えながら改善を進めていきたい。

イ	・児童生徒が主体的に学ぶ授業実践	・各G共通理解のもと、子どもがどのように学ぶかの視点で検討、評価することで授業を改善することができた。 ・授業研究を通して、授業改善を図ったり自分の実践の参考にしたことができた。95%以上	AB評価 97%	A	・コロナ禍での日々の授業づくりやこれまでの授業を見直す機会を通して、授業改善を図ったり、自分の実践の参考にしたことができた。今後は、今年度の各グループの成果も生かしつつ、今年度十分にできなかった子どもがどのように学ぶかの視点で検討、評価を研修していくことで、授業改善を図っていききたい。
		・学習会を通して新学習指導要領について理解でき、学部、学習グループの課題について検討、検証することができた教員95%以上	AB評価 96%	A	・新学習指導要領完全実施の流れに沿って、各学部にあった内容や課題について検証、準備、計画等、進めることができた。学習指導要領移行期間のため、今後も継続していききたい。その中で、学習会などで学んできた成果を、年間指導計画や個別指導計画作成に生かしていけるよう、学部(学G)、分掌と連携して取り組んでいきたい。
イ	・多様な障害特性に対応できる資質能力の維持向上	・実践レポート、教材、ポスター等の作成100%	AB評価 100%	A	・単年度から2年計画へと変更し、実践をもって成果とした。年間5回、グループでの研修を重ね、専門性を高めることができた。今年度の反省を基に、リーダー選出の在り方やグループ編成の見直し等を行い、次年度も指導力・実践力の強化を図りたい。
		・指導ハンドブックを活用した各学部会や学G会、専門性プロジェクトグループ学習等で必要な知識や理解を深めたりすることができる。95%以上	AB評価 100%	A	・新任・転任の教員も含めて、肢体不自由教育に必要な知識や理解を深めることができた。また、必要に応じて、個々に指導ハンドブックを参考にして指導に生かすことができた。今後は、指導ハンドブックの改定と活用方法の工夫を図っていききたい。
		・1学期と比べて、ICT機器を使う回数が増えた教員90%以上	AB評価 98%	A	・定期的なワンポイントレッスンや日頃のニーズに応じた情報発信等によりABで98%という成果が得られた。今後の課題は、より活用することを求められることと、環境の不備による活用意欲の減少が予想されるので、引き続き情報発信を計画することや環境の整備に努めていききたい。
		・学習グループごとに1名以上、事例児童生徒を選定し、研修を受け、学習グループ内で共通理解する。100%	AB評価 97%	A	・実施したグループについては学習グループ内で共通理解されている。 ・今年度は感染予防のため様子を見ながらの実施であった。 ・運営方針の明瞭化を図る。 ・研修事後の工夫を図る。 ・教員が課題を把握する力の向上を図る。
イ	・卒業後を見据えた12年間の系統的・段階的な指導・支援	・ワンポイントレッスンの内容や進路情報コーナーの掲示・資料が指導の参考になった教員90%以上	AB評価 98%	A	・各学部に応じた内容で個別の教育支援計画の記入方法や移行支援計画、進路指導についてのワンポイントレッスンや資料の提示を行った。今後も提示する時期や内容を工夫し、知識の伝達ができるようにする。また、積極的に校内掲示板を活用し、情報提供ができるようにしていく。 ・面談時、保護者に説明したり、確認したりするために、記録用紙は効果的だった。また、情報の共有や共通理解につながることもできた。今後も、3分掌で連携を図り、目標の検討、ケース会の資料として活用できるように考えていききたい。
		・個別面談記録用紙を、面談時の内容確認や、面談後の共通理解に役立てることができた教員95%以上	AB評価 97%		

ウ	・家庭・地域・関係機関との連携を強化	・ケース会議や支援会議後の報告を聞き、児童生徒の支援方法が理解できた教員の割合 80%以上	AB評価 95%	A	・行動上の問題を抱える児童生徒が多いことや教員の指導力を向上することから事例検討は必要であるという意見をいただいた。今後も適宜行っていきたいと考える。
		・PTA活動を理解したり、年1回以上活動に参加したりした職員100%	AB評価 97%	A	・コロナの影響で、PTAの事業は中止になったものが多かった。その中で、奉仕作業は2回行えた。「光の子」や進路アンケートも作成することができた。それらを読んだり、知ったりすることができた職員がほとんどであった。 ・来年度も、参加することは難しいが、PTA活動に関心をもてるように掲示板で告知をしていく。
		・高等部実習事後アンケートによる「連携できた」という事業所の評価100%	AB評価 100%	A	・関係機関と電話連絡や訪問しての打合せで、書類や画像を提示し実習に関する生徒の情報を共有することができた。 ・個々の実習に至るまでの経過を把握し、事業所への伝え方を吟味して打合せをしていく。
・共生・共育社会の実現に向けて、地域に開かれた学校づくり	・本校の教育を理解することができた参加者アンケート90%以上 ・テンプレートに従って、ホームページ記事の作成、更新を行うことができた教員100%			B	・新型コロナウイルス感染症予防のため実施しなかった。
		AB評価 90%	A	・計画実行の遅れもあり目標数値までには及ばなかったが、達成に向けた計画や環境づくりによりABで90%というある一定の成果は得られたと評価したい。今回の取り組みにより大半の先生方にホームページの作成方法や更新方法を知ってもらえたが、いつ更新したら良いかという働きかけはしばらく必要と予想されるので継続して情報教育課から発信をしたい。	
エ	・教材研究の時間を確保する。	・毎回の授業で適正な人数配置ができたとする教員80%以上	AB評価 95%	A	<小学部>教材研究の時間が確保できたとする教員は、95%であった。学年、グループによる残業時間の偏りは少なかった。今後も、担当授業や所属グループ、業務等を考慮した持ち授業時数を設定する。
			AB評価 100%	B	<中学部>生徒の登校状況により教員の人数を減らしたり、助勤が必要な時には、学習グループや学部内で調整をしたりして、教材研究の時間を確保しつつ、適正な人数配置ができた。来年度も指導に必要な人数を確認して授業を組み立てていく。
			AB評価 89%	A	<高等部>コロナ禍における対策はあったが、現状の中では努力できている。学部の特性上、他グループの授業に指導者として入ることが多々ある。今年度取り組んだ指導カードの作成は有効であった。さらに活用できるよう共通理解していきたい。 ・職員と生徒の男女比に開きがあり、学習活動や介助に負担があり、チームティーチングも限界があった。高校生として生活を送るための適切な教師の男女比が必要である。
			AB評価 100%	A	<訪問教育>限られた時間の中でできることを考えて準備をした。時間をうまく使おうという意識改革ができた。

・信頼される教職員による学校づくり	・不祥事0、交通事故0の健全な職場	AB評価 98%	A	・事故報告作成4件。 ・次年度もPC掲示板にて、コンプライアンス通信等の定期的な呼び掛けや交通安全に関するの標語や冊子の掲示、無事故カウントの表示を行い、不祥事や交通事故に関して啓発していく。
・多忙化解消に向けた業務改善	・業務の効率化と仕事の平均化による働きやすい職場環境	AB評価 93%	A	・学期によって業務内容が異なる場合もあるが、月45時間以上勤務者が1学期より2学期37%減少した。 ・来年度も会議時間はおよそ30分を目途とする、資料は事前配布を心掛ける、会議が長くなる場合は、効率化を図るためにも休憩をはさむ、PC掲示板を有効活用し、会議内容の精選を行う等の工夫をしていく。

(2) 令和3年度の取組目標・達成方法・成果目標(重点目標はゴシック体で記載)

ア 安全・安心な児童生徒の学習・教育環境づくり

取組目標	達成方法(取組手段)	成果目標
・非常時・災害時の教職員の対応能力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策に対応した避難や対応(訓練)の形を実践・考察し、確立する。 ・訓練の流れを事前に学部会や朝打ち合わせ等で確認し、実践した後考察する。 ・避難及び緊急時下校の流れについて事前に学部会や朝の打ち合わせ等で確認し、実践した後考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練や不審者対応研修の事前に動きを確認し、自分の動きが理解できたとする職員100% ・巨大地震発生時の避難及び緊急時下校の流れについて理解できたとする教職員80%
	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員対象の心肺蘇生法講習会を実施する。実技を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心肺蘇生法の流れを理解し、自分の役割を果たすことができるとする教職員100%
	<ul style="list-style-type: none"> ・発作やカニューレ抜去などの緊急時対応訓練の実施(学部2回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・発作やカニューレ抜去など、緊急時の流れを理解し、自分の役割を果たすことができたとする教職員100%
・児童生徒の人権を守る教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・職員を対象とした人権チェックシートを実施する。(年2回) ・各自が年間の人権目標を設定する。目標に対する取り組みを学年会で報告(年3回)し、人権に対する意識を高める。 ・「静岡県人権教育の手引き」を使った職員対象の学習会を計画する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の人権目標を意識し、児童生徒の人権を守って接することができた教職員100%
・児童生徒が安全・安心に生活し、活動できる環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい食事環境(食堂及び教室)について、状況把握、安全性の検証等を行い、学校給食委員会にて検討改善する。 ・食形態周知のための共有する場を設け、個々に合わせた食形態の検討及び導入を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態に合った食形態の提供や食事環境設定の改善が図れたとする教職員90%以上

<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアに関する研修を実施する。(学部ワンポイントレッスン4回) ・ヒヤリハットの原因、改善策などの情報を共有し、再発を防止する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修を受け、医療的ケアについての知識を深めることができたとする教職員100% ・ヒヤリハットの情報を聞き自分の指導に活かすことができたとする教職員100%
<ul style="list-style-type: none"> ・新任・初任者研修の実施及び全職員を対象に安全で効果的な指導についての情報共有体制を整える。(摂食指導、介助法) ・教材教具を整備し、活動しやすい環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新任初任者が研修内容を理解できたと回答する教職員95% ・学G会や学年会等を通して、学部内で指導に必要な情報について共有する機会学期1回以上 ・学校にある教材教具を知っている、活用することができたとする教職員80%以上
<ul style="list-style-type: none"> ・施設設備点検の実施による不具合箇所等の把握、共有と改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・学部ごとの施設設備点検月1回実施 ・備品の現有確認年1回実施 ・施設設備における事故0

イ 児童生徒の主体的な学びと生きる力を育む

取組目標	達成方法 (取組手段)	成果目標
<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が主体的に学ぶ授業実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の観点や評価の視点等を整理し、各Gで共通理解し(1学期実施)、「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくり、授業改善を実施。 ・「自ら学び、自ら表現する人」を目指した学習グループ授業研究と公開授業研究会の実施。 ・新学習指導要領完全実施に向けて教育課程・日課の検討、完全実施後の検証(学部の流れに沿って学習会・検討会、教育資料の検討等実施年間5回以上) 	<ul style="list-style-type: none"> ・各Gで共通理解のもと、子どもがどのように学ぶかの視点で検討、評価することで授業を改善することができたとする教職員95%以上 ・授業研究を通して、授業改善を図ったり、自分の実践の参考にしたりすることができたとする教職員95%以上 ・学習会、検討会を通して新学習指導要領についての理解ができ、学部、学習グループの課題や教育資料について検討、検証することができたとする教職員95%以上
<ul style="list-style-type: none"> ・多様な障害特性に対応できる教職員の資質向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による研修会の実施。 ・各学部会、学G会、専門性プロジェクトグループ学習会、研修会等で、指導ハンドブックの活用を推進する。 ・学部会ワンポイントレッスンや夏期研修等で年3回以上、活用方法(実践例紹介含)やアプリ情報を発信する。 ・利用可能な環境整備 ・学習指導要領を意識した自立活動指導や外部講師研修などの活用を行い、適切な課題設定や指導ができるようにするための研修やケース会、情報提供を行う。 ・専門性プロジェクトグループ学習による指導力・実践力の強化 ・専門性の高い教員の指導力・スキル技術の伝承 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による研修会の充実を図ったり、各学部会や学G会、専門性プロジェクトグループ学習等で指導ハンドブックを活用したりすることで、必要な知識や理解を深めたりすることができたとする教職員95%以上 ・昨年度と比べて、タブレットを使って授業する回数が増えたとする教職員90%以上 ・児童生徒の実態の捉え方や評価、指導法について様々な知見を得ることができたと回答した教職員90%以上 ・自立活動6区分について知り実態把握シートの作成について理解することができたとする教職員90%以上 ・レポート、教材、事例研究等の作成100%

<ul style="list-style-type: none"> 卒業後を見据えた系統的・段階的な指導・支援の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 学部・学年ごとや時期に応じた内容の知識伝達、情報提供（学部会ワンポイントレッスン年間4回、資料の提供、校内掲示板） 継続した指導・支援につながる個別面談の計画、内容の検討と記録用紙の活用 	<ul style="list-style-type: none"> 知識伝達や情報提供が指導支援の参考にできたとする教職員90%以上 児童生徒の実態に沿った個別の教育支援計画を作成することができたとする教職員100% 記録用紙を面談時の内容確認や、共通理解、ケース会資料作成などに役立てることができたとする教職員95%以上
--	--	---

ウ 保護者、地域、関係機関と連携、協働した学校づくり

取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
<ul style="list-style-type: none"> 家庭・地域・関係機関との連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭・地域・関係機関との連携方法の情報提供（面談、家庭訪問前の学部会ワンポイントレッスン） 	<ul style="list-style-type: none"> 相談支援事業所や関係機関について理解することができたとする教職員95%以上
	<ul style="list-style-type: none"> 家庭と学校が協力して行うPTA活動を実施し、その活動の案内や報告を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> PTA活動についての配布文書を読んだり、内容を理解したりした教職員100%
	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関との打ち合わせや移行支援会議の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 高等部実習事後アンケートによる「連携できた」という事業所の評価100%
<ul style="list-style-type: none"> 共生社会の実現に向けて、地域に開かれた学校づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 学校公開の開催（夏季休業時に行う。年1回） 	<ul style="list-style-type: none"> 本校の教育を理解することができたとする参加者90%以上
	<ul style="list-style-type: none"> 年度初めにホームページ記事作成手順の説明を行う。 各グループ、学年等で定期的に記事を作成して掲載できるように計画する。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ記事の作成、更新を行うことができたとする教職員90%以上

エ 生き生きと働くための環境づくり

取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
<ul style="list-style-type: none"> 信頼される教職員による学校づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議等でコンプライアンスに関する情報の伝達、啓発、注意喚起 事故削減プログラムへの確実な取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> 不祥事0、交通事故0の健全な職場
<ul style="list-style-type: none"> よりよい授業づくりのための時間の確保 	<ul style="list-style-type: none"> 各授業において、チームティーチングを効果的に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎回の授業で適正な人数配置ができたとする教職員80%以上
<ul style="list-style-type: none"> 多忙化解消に向けた業務改善 	<ul style="list-style-type: none"> 時間設定による会議の効率化 書類のコンパクト化による業務の効率化 	<ul style="list-style-type: none"> 業務の効率化と仕事の平均化による働きやすい職場環境 文書配布のみの会議など、会議削減の工夫年1回

4 監査対象期間における特色ある取組

年度	取組概要	成果及び課題
2年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 非常時・災害時の教職員の対応能力の向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地震、火災、抜き打ちなどいろいろなスタイルの訓練を行った。 ・ 防災運用計画を基に、学部会、学年会で自分の動きを確認し、避難訓練を通してマニュアルの検討を行った。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒が主体的に学ぶ授業の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日々の授業づくりやこれまでの授業を見直す機会を通して、授業改善を図ったり実践の参考にしたりすることができた。 ・ 新型コロナの影響で、外部講師を招聘しての授業研究は行うことができなかった。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭・地域・関係機関との連携を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナの影響で、PTA事業は中止となったものが多かった。奉仕作業2回、学校だより「光の子だより」の発行により、家庭・地域に発信することができた。諸機関との連携は、進路や必要な事業所とは連絡を取り合い、ケース会などを行うことができた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多忙化解消に向けた業務改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍の中での対策として、会議時間は30分とした。また、資料は事前配布とし、質問事項等前もって提案者に伝え会議の中で返答できるようにした。
3年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 非常時・災害時の教職員の対応能力向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地震、火災、抜き打ちなどいろいろなスタイルの訓練を行った。 ・ 緊急時の下校訓練では事前のシュミレーションを2回行い、より実践的な動きをイメージできて、大きな混乱もなく保護者に児童生徒の引き渡しが行えた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒が主体的に学ぶ授業の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日々の授業づくりやこれまでの授業を見直す機会を通して、授業改善を図ったり実践の参考にしたりすることができた。 ・ 外部講師を招聘しての公開授業研究会を12月に行った。類型ごとによる話し合いや外部講師からの助言をいただき、個々の実践に生かすことができた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭・地域・関係機関との連携を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナの影響で、PTA事業は中止となったものが多かった。奉仕作業2回、学校だより「光の子だより」の発行により、家庭や地域の回覧版で発信することができた。高等部のPTA進路学習会は1回開催できた。内容をDVDに収めて希望する保護者に貸し出しをし他学部にも伝えた。諸機関との連携は、必要に応じて児童生徒に関わりのある機関との支援会議を行うことができた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 信頼される教職員による学校づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不祥事根絶のための基盤として、風通しの良い職場環境づくりを目指し概ね達成できた。引続き、コンプライアンス通信等の情報発信、安全運転目標等の掲示、職員会議等での啓発、注意喚起を行っていく。

5 教職員について

(単位：人)

(1) 異動状況

区分	本 務 職 員											臨時的任用職員・会計年度任用職員										合 計				
	教 育 職 員						行 政 職 員					本務計	教諭(任)	教諭(臨)	養護教諭(任)	養護教諭(臨)	栄養士(臨)	任期付短時間勤務職員	非常勤講師	非常勤講師(看護)	初任者研修指導員(養護)		非常勤労務職員	非常勤嘱託員	臨時等計	
	校長	副校長	教頭	教諭	養護教諭	栄養教諭	小計	事務長	主査	主任	主事															小計
転出者		1	1	14	1	17	1				1	2	19	2	3									5	24	
退職者				6		6						0	6		5		1		1	1	3	1		1	13	19
転入者		1	1	12		14	1				1	15	1	1										2	17	
新任者				10		10					1	1	11		2	1	1	2	1	2			1	1	11	22
差引増減	0	0	0	2	△1	0	1	0	0	0	0	0	1	△1	△5	1	△1	1	1	0	△1	△1	1	0	△5	△4

(単位：人)

(2) 現員数 (令和4年4月1日現在)

区分	本 務 職 員											臨時的任用職員・会計年度任用職員										合 計				
	教 育 職 員						行 政 職 員					本務計	教諭(任)	教諭(臨)	養護教諭(任)	養護教諭(臨)	栄養士(臨)	任期付短時間勤務職員	非常勤講師	非常勤講師(看護)	初任者研修指導員(養護)		非常勤労務職員	非常勤嘱託員	臨時等計	
	校長	副校長	教頭	教諭	養護教諭	栄養教諭	小計	事務長	主査	主任	主事															小計
男		1	1	30		32	1	1				2	34	1	9									4	14	48
女	1			59	2	63				1	1	2	65	7	2	1	1		6				7		25	90
計	1	1	1	89	2	95	1	1	1	1	4	99	8	11	1	0	1	1	0	6	0	11	0	39	138	

(3) 健康管理について

ア 健康診断における健康管理

(ア) 再検・精密検査者に対して早期受診の勧めを心掛けた。(全員受診)

(イ) 健康管理医による指導に基づき、早期治療及び経過観察等の措置を促した。

イ 日常の健康管理

(ア) 教職員の身体的健康や精神衛生に配慮し、「腰椎予防講座」の実施を予定していたが、コロナの関係で実施できなかった。

(イ) 毎週水曜日を定時退勤日とし、疲労の蓄積防止を図った。

<令和3年度の計画 >

ア 健康診断における健康管理

令和2年度と同様に管理していく。

イ 日常の健康管理

(ア) 教職員の心身の健康に配慮し、常時健康相談や受診指導を実施する。

(イ) 健康管理医による健康指導は、健康管理対策を中心としたものを4回以上実施する。

(ウ) 腰痛予防対策としてストレッチや2人で介護することを呼びかける。

(エ) 毎週水曜日の定時退勤を呼びかけ疲労の蓄積を防止する。

(オ) 出張カウンセリングやカウンセリング通信の紹介

(4) 教職員の研修について

年度	目 的	研修内容	成果及び課題
2 年 度	ア 児童生徒が主体的に学ぶ授業づくりを実践する	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の観点や評価の視点等を整理し、各グループで共通理解し「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくり、授業改善を実施する。 ・「自ら学び、自ら表現する人」を目指した学習グループでの授業研究の実施をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループ共通理解のもと、子どもがどのように学ぶかの視点で検討、評価することで授業を改善することができた。 ・学習会を通して新学習指導要領を押さえながら、学習グループに合った内容や課題について検証、準備、計画等を進めることができた。
	イ 多様な障害特性に対応できる資質能力の維持向上	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初、新任・初任者向けに自立活動オリエンテーションや摂食基礎研修を実施する。 ・専門性向上プロジェクトグループ学習による指導力、実践力の強化を行う。 ・外部専門家（PT、OT、摂食）による訪問指導を実施する。 ・「指導ハンドブック」を活用して学習会を実施する。 ・校内スーパーバイザーの指導を受け、自立活動や摂食指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由特別支援学校で必要な知識や技能を伝達した。 ・年間5回、グループでの研修を重ね、専門性を高めることができた。（防災、ZOOM、個別の教育指導計画など） ・外部専門家（PT、OT、摂食）による訪問指導を実施した。受けた指導を確実に共有するようになった。 ・学習グループ会、学年会などで活用をしている。 ・気になる児童生徒について、学部を越え食形態、姿勢、自立活動の内容等について指導を受け、日頃の指導を見直す良い機会となった。
	ウ 初任者研修、2年次研修、3年次研修、6年次研修、中堅教諭等資質向上研修の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・初任者研修では、指導教員を中心に学校全体で取り組み、教員の資質の向上を図る。 ・各経験段階に応じ、自己で課題を設定し、課題に沿った研修を行い、理論や技術、子どもの見方、学校運営への参画等の資質を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導教員を中心に各教科担当、管理職、分掌課長等からの講話や演習を設け計画的に実施している。 ・各経験段階に沿って企画された研修を実施している。必要に応じ、相談、指導を行っている。

年度	目 的	研修内容	成果及び課題
3 年 度	ア 児童生徒が主体的に学ぶ授業の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の観点や評価の視点等を整理し、各グループで共通理解し「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくり、授業改善を実施する。 ・「自ら学び、自ら表現する人」を目指した学習グループでの授業研究と公開授業研究会の実施をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3観点で目標設定をし、子どもがどのように学ぶか四つの視点で、子どもの学びの変容や教師の支援について検討し、授業改善をすることができた。 ・校内授業研究、公開授業研究会で可視化シートを用いて事後検討会を実施することで、環境設定の工夫や支援の方法などを個々の実践に生かすことができた。
	イ 多様な障害特性に対応できる資質能力の維持向上	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初、新任・初任者向けに自立活動オリエンテーションや摂食基礎研修の実施する。 ・専門性向上プロジェクトグループ学習による指導力、実践力の強化を行う。 ・外部専門家（PT、OT、摂食）による訪問指導を実施する。 ・外部講師による研修会を実施する。 ・各学部会、学習グループ会、専門性プロジェクトグループ学習会、研修会等で、指導ハンドブックの活用を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由特別支援学校に必要な知識や技能を伝達した。 ・年間4回、グループでの研修を重ね、専門性を高めることができた。（ICT、からだ、摂食指導、2年次研修など） ・外部講師研修では、児童生徒の個々の課題に即した支援を職員が学び指導改善へとつなげることができるケースが多かった。 ・はごろも「夢」講演会を実施した。事前アンケートを取り、講演で聞きたい内容を講師に伝えることで内容の充実を図ることができた。 ・指導ハンドブックは、ワンポイントレッスンや自立活動オリエンテーションなど様々な場で活用することができた。
	ウ 初任者研修、2年次研修、3年次研修、6年次研修、中堅教諭等資質向上研修の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・初任者研修では、指導教員を中心に学校全体で取り組み、教員の資質の向上を図る。 ・各経験段階に応じ、自己で課題を設定し、課題に沿った研修を行い、理論や技術、子どもの見方、学校運営への参画等の資質を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導教員を中心に各教科担当、管理職、分掌課長等からの講話や演習を設け計画的に実施している。 ・各経験段階に沿って企画された研修を実施している。必要に応じ、相談、指導を行っている。

6 防災対策について

年度	重点目標	取組内容	主たる活動	成果と課題
2 年 度	ア マニュアルに基づく非常時に備えた実践的な訓練の計画立案	<ul style="list-style-type: none"> 様々な状況を想定した避難訓練の実施とマニュアルの検討 緊急下校時の児童生徒の引き渡し方法やマニュアルの確認、徹底と内容の改善 不審者訓練を通して、侵入時における不審者への対応や児童生徒の避難誘導手順の確認をする。 まちcomi開封確認訓練 伝言ダイヤル171訓練を実施し、保護者、職員の非常時の連絡方法確認の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練 年2回 簡易避難訓練 年2回 緊急下校訓練 年1回 簡易不審者対応訓練 年1回 まちcomi開封確認訓練 「171」訓練 年1回 	<ul style="list-style-type: none"> 地震による体育館への避難訓練を実施し避難経路の確認を行った。児童生徒自らが考えられる簡易避難訓練ができた。火災時の避難経路について見直すことができた。 緊急下校訓練時の児童生徒の待機場所や車の誘導、待機時の医療的ケア実施の問題点等が分かり、マニュアルの改善が行えた。 不審者対応訓練は警察と連携しての研修を来年度は行いたい。 連絡方法が完全には徹底できなかった。また、まちcomiでの連絡も課題があることが分かった。保護者、教職員のまちcomi加入の徹底を図っていく。
	イ 防災、防犯等緊急時における対応についての見直し	<ul style="list-style-type: none"> 防災対策委員会開催 防災計画書の随時見直し 防災班長会の実施 児童生徒個人用避難用品の定期的入れ替え 職員への備蓄の推奨 	<ul style="list-style-type: none"> 防災対策委員会 年1回以上 防災計画書とマニュアルの検討・作成年1回 防災班長会 年3回 避難用品入替 年2回 職員へのアンケート実施 年3回 	<ul style="list-style-type: none"> より実践的な計画書になるよう年度当初の作成と説明を行った。 マニュアルを基にした訓練を行うことで、緊急時には対応可能であると多くの教員が答えた。各訓練のアンケートを基にマニュアルを改善し、より見やすく、実践的なものにしていく。 訓練後には学年・グループ等でマニュアルに訂正を加え、防災課で把握しマニュアルの改訂を行う。 防災班長会はコロナ対策のため、実施しなかった。 緊急時の正しい初動を全職員が取れるよう訓練を重ねていく。
	ウ 安全な教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 月例施設点検の実施と迅速な補修対応 危険箇所・校舎内外の死角となりやすい箇所の定期点検、環境改善 教室等の構内整備、環境備品の管理、花壇の割振り、点検、整理等安全な環境づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 施設維持管理点検 年1回 危険箇所点検 年3回 備品整理 年3回 職員作業 年6回 	<ul style="list-style-type: none"> 月1回の点検を実施し、補修の必要な箇所を確認した。 P T Aと協力しながら校外清掃、花壇作りを行った。
	エ 地域と連携した教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 保護者参加型の防災研修会の実施 防災地区担当者の決定と顔合わせ会の実施 福祉避難所（障害者専用避難所）としての体制作り 地域の防災組織及び近隣の学校（中学・高等学校・大学）との協力体制の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者参加型の研修 年1回 防災地区担当者会 顔合わせ会 年1回 地域防災会議 年1回 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナの影響のよりすべての活動が実施できなかった。 毎月の「防災の日」には学級ごとに何を指導するか具体的に示し、児童生徒の防災意識を高める機会としていきたい。また、各訓練の事前、事後指導での指導事項を整理し、訓練がより効果的なものとなるようにしていきたい。

年度	重点目標	取組内容	主たる活動	成果と課題
3 年 度	ア マニュアルに基づく非常時に備えた実践的な訓練の計画立案	<ul style="list-style-type: none"> 様々な状況を想定した避難訓練の実施とマニュアルの検討 緊急下校時の児童生徒の引き渡し方法やマニュアルの確認、徹底と内容の改善 不審者訓練を通して、侵入時における不審者への対応や児童生徒の避難誘導手順の確認をする。 まちcomi 開封確認訓練 伝言ダイヤル171訓練を実施し、保護者、職員の非常時の連絡方法確認の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練 年2回 簡易避難訓練 年2回 緊急下校訓練 年1回 簡易不審者対応訓練 年1回 まちcomi 開封確認訓練 「171」訓練 年1回 	<ul style="list-style-type: none"> 抜き打ちの訓練を実施した。その時の状況によってどう自分を守るのか、どう対処するのか、児童生徒、教職員がそれぞれの立場で考える機会となった。 全体説明や事前演習、最終打合せ等を徹底したことで、教員の理解が高まった。送迎車の配車方法や送迎時間について改善していく。 不審者対応訓練は警察と連携しての研修を来年度は行いたい。 全員の登録ができず、連絡方法が完全には徹底できなかった。来年度はCOCOOの導入となるため、混乱のないよう保護者、教職員の登録手続きを行っていく。
	イ 防災、防犯等緊急時における対応についての見直し	<ul style="list-style-type: none"> 防災対策委員会開催 防災計画書の随時見直し 防災班長会の実施 児童生徒個人用避難用品の定期的入れ替え 職員への備蓄の推奨 	<ul style="list-style-type: none"> 防災対策委員会 年1回以上 防災計画書とマニュアルの検討・作成 年1回 防災班長会 年3回 避難用品入替 年2回 職員へのアンケート実施 年3回 	<ul style="list-style-type: none"> より実地的な計画書になるよう年度当初の作成と説明を行った。 各訓練のアンケートを基にマニュアルを改善し、より見やすく、実践的なものにしていく。 訓練後には学年・グループ等でマニュアルに訂正を加え、防災課で把握しマニュアルの改訂を行う。 防災班長会はコロナ対策のため、実施しなかった。 緊急時の正しい初動を全職員が取れるよう訓練を重ねていく。
	ウ 安全な教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 月例施設点検の実施と迅速な補修対応 危険箇所・校舎内外の死角となりやすい箇所の定期点検、環境改善 教室等の構内整備、環境備品の管理、花壇の割振り、点検、整理等安全な環境づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 施設維持管理点検 年1回 危険箇所点検 年3回 備品整理 年3回 職員作業 年6回 	<ul style="list-style-type: none"> 月1回の点検を実施し、不具合にすぐに対応できるように防災安全課が中心となって、補修の必要な箇所を確認した。 P T Aと協力しながら校外清掃、花壇作りを行った。
	エ 地域と連携した教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 保護者参加型の防災研修会の実施 防災地区担当者の決定と顔合わせ会の実施 福祉避難所（障害者専用避難所）としての体制作り 地域の防災組織及び近隣の学校（中学・高等学校・大学）との協力体制の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者参加型の研修 年1回 防災地区担当者会 顔合わせ会 年1回 地域防災会議 年1回 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナの影響のよりすべての活動が実施できなかった。 毎月の「防災の日」には学級ごとに何を指導するか具体的に示し、児童生徒の防災意識を高める機会としていきたい。また、各訓練の事前、事後指導での指導事項を整理し、訓練がより効果的なものとなるようにしていきたい。

7 学校開放について

静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱及び静岡県立西部特別支援学校の施設等の開放に関する細則に基づき、障害者団体の活動や地域の文化、スポーツ活動に学校の施設を開放したが新型コロナウイルス感染症の影響により開放実績が減少した。

(令和4年2月28日現在)

施設名	利用種目	2年度			3年度			備考
		利用日数	利用者数	利用者負担金 (電気料)	利用日数	利用者数	利用者負担金 (電気料)	
体育館	ポートボール	日	人	44円	日	人	118円	
	バレーボール	日	人		日	人		
	空手	日	人		日	人		
	施設行事	日	人		日	人		
	太鼓	日	人		日	人		
	よさこい	日	人		日	人		
機能訓練室	学習会	1日	10人	2日	15人			
音楽室	バンドサークル	6日	28人	日	人			
運動場	学習会	日	人	日	人			
計		7日	38人	2日	15人			

事務執行の根拠法令調

項 目	根 拠 法 令
<p>学校教育に関すること</p>	<p>教育基本法（第1条、第2条） 学校教育法（第1条、第2条、第3条、第72条、第73条、 第74条、第76条、第77条、第82条） 学校教育法施行規則 学校保健安全法（第5条） 学校給食法（第4条） 静岡県立学校設置条例 静岡県立特別支援学校学則 静岡県就学指導委員会規則 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 特別支援学校高等部学習指導要領</p>
<p>学校の管理・運営に関すること</p>	<p>学校教育法（第137条） 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第33条） 静岡県立学校管理規則 教育公務員特例法（第21条、第22条） 学校保健安全法（第15条、第27条） 学校給食法（第9条、第11条、第12条） 静岡県立学校職員安全衛生管理規程 静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱 学校図書館法（第3条、第4条） 静岡県教育委員会処務規程 特別支援学校への就学奨励に関する法律（第1条～第4条） 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行令 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行規則 特別支援教育就学奨励費負担金等及び要保護及準要保護児 童生徒援助費補助金交付要綱</p>

学校施設の概要

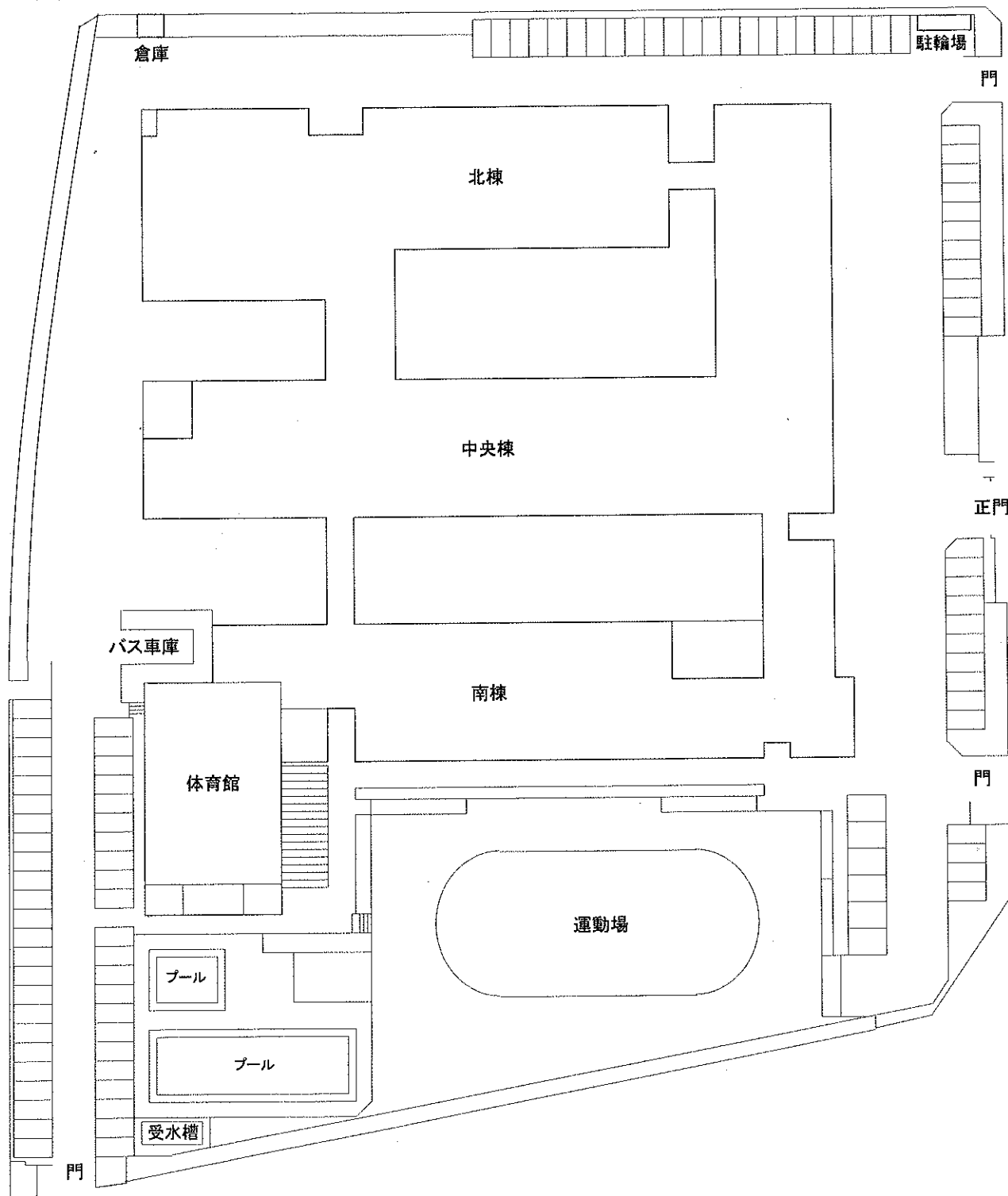
1 面積及び所有区分

(令和4年2月28日現在)

区 分	面 積 m ²	所 有 内 訳					摘 要
		県 有 m ²	国 有 m ²	市町村有 m ²	後援会有 m ²	民 有 m ²	
学 校 敷 地	18,616.23	18,616.23					
内 訳	校舎敷地	16,490.23	16,490.23				
	運動場敷地	1,765.01	1,765.01				
	その他の敷地	360.99	360.99				
校 舎	建5,834.34 延9,054.69	建5,834.34 延9,054.69					
体 育 館	建 679.48 延 646.28	建 679.48 延 646.28					
その他の建物	建 246.12 延 246.12	建 246.12 延 246.12					
プ ー ル	2個	2個					

2 配置・規模等

(1) 校舎等の配置図



(2) 学校施設の規模等(法面・演習林等を除く)

区分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当校	18,616.23㎡	9,054.69㎡	1,765.01㎡
県平均	17,024.29㎡	6,367.07㎡	4,704.26㎡

在籍生徒調

(令和4年2月28日現在)

学年	学部 区分	小学部				中学部				高等部				合計			
		定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計
1年	入学者		10	7	17		7	11	18	18	3	7	10		20	25	45
	増加 減少							1	1			1	1			2	2
	現在		10	7	17		7	12	19		3	6	9		20	25	45
2年	入学者		4	10	14		3	1	4	21	8	5	13		15	16	31
	増加 減少							1	1		1		1		1		1
	2年時当初		4	10	14		3	2	5		7	5	12		14	17	31
	増加 減少		1		1										1		1
	現在		3	10	13		3	2	5		7	5	12		13	17	30
3年	入学者		7	3	10		11	8	19	21	6	4	10		24	15	39
	増加 減少						1		1		1		1		2		2
	2年時当初		7	3	10		10	8	18		5	4	9		22	15	37
	増加 減少											1	1			1	1
	3年時当初		7	3	10		10	8	18		5	3	8		22	14	36
	増加 減少							1								1	1
現在		7	3	10		10	7	17		5	3	8		22	13	35	
4年	入学者		7	4	11										7	4	11
	増加 減少																
	2年時当初		7	4	11										7	4	11
	増加 減少																
	3年時当初		7	4	11										7	4	11
	増加 減少															1	1
	4年時当初		7	3	10										7	3	10
	増加 減少																
現在		7	3	10										7	3	10	
5年	入学者		7	2	9										7	2	9
	増加 減少		1		1										1		1
	2年時当初		6	2	8										6	2	8
	増加 減少																
	3年時当初		6	2	8										6	2	8
	増加 減少		3		3										3		3
	4年時当初		3	2	5										3	2	5
	増加 減少																
	現在		3	2	5										3	2	5
6年	入学者		11	7	18										11	7	18
	増加 減少															2	2
	2年時当初		11	5	16										11	5	16
	増加 減少															1	1
	3年時当初		11	6	17										11	6	17
	増加 減少																
	4年時当初		11	6	17										11	6	17
	増加 減少		1		1										1		1
	5年時当初		12	6	18										12	6	18
	増加 減少															1	1
	6年時当初		12	5	17										12	5	17
増加 減少																	
現在		12	5	17										12	5	17	
合計			42	30	72		20	21	41		15	14	29		77	65	142

入学志願者及び入学者数調

区 分		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
学 科 別		高等部（普通科）	高等部（普通科）	高等部（普通科）	高等部（普通科）	高等部（普通科）
生徒定員 (A)		21	21	21	18	18
志願者数	男	4	8	6	8	3
	女	4	3	4	5	7
	計 (B)	8	11	10	13	10
受検者数	男	4	8	6	8	3
	女	4	3	4	5	7
	計 (C)	8	11	10	13	10
合格者数	男	4	8	6	8	3
	女	4	3	4	5	7
	計 (D)	8	11	10	13	10
志願倍率 (B) / (A)		0.38	0.52	0.48	0.72	0.56
受検倍率 (C) / (A)		0.38	0.52	0.48	0.72	0.56
入学者数	男	4	8	6	8	3
	女	4	3	4	5	7
	計 (E)	8	11	10	13	10
充足率 (E) / (A)		0.38	0.52	0.48	0.72	0.56

卒業生の動向調

区 分		中学部	高 等 部		合 計
			本 科	専攻科	
高等学校 (本科)	全日制				
	定時制				
	通信制				
特別支援学校高等部		16			16
その他高等学校等					
大学等	大学(学部)				
	短期大学(本科)				
	大学・短大の通信教育学部等				
	その他大学等				
特別支援学校高等部専攻科					
専修学校(専門課程)					
専修学校(一般課程)・各種学校					
公共職業能力開発施設等					
就 職					
上記以外※		1	8		9
不詳・死亡					
計(卒業生総数)		17	8		25

(再掲) 「上記以外※」のうち、社会福祉施設等入所、通所者

区 分		中学部	高 等 部		合 計
			本 科	専攻科	
児童福祉施設					
障害者支援施設		1	8		9
(うち就労系支援事業利用者)			(2)		(2)
医療機関					
計		1	8		9

生徒の状況

1 生徒の出身地域及び通学方法

(1) 出身地

(令和4年2月28日現在)(単位:人)

市町名	浜松市	湖西市	掛川市	磐田市	袋井市	その他	合計
生徒数	123	3	2	4	2	8	142
構成比%	86.6	2.1	1.4	2.9	1.4	5.6	100.0 %

(2) 通学方法

(令和4年2月28日現在)(単位:人)

区分	スクールバス	自動車	交通機関	訪問教育	合計
生徒数	36	71	7	28	142
構成比%	25.4	50.0	4.9	19.7	100.0 %

(3) 訪問教育の状況

(令和4年2月28日現在)(単位:人)

訪問教員等			市町	浜松市	掛川市	磐田市	その他	計
小・中学部	教諭	9	小学部	12	0	2	4	18
	講師	2	中学部	4	2	0	2	8
高等部	教諭		高等部	0	0	0	2	2
	講師	1						
計		12	計	16	2	2	8	28

2 部(クラブ)の加入状況

中学部

(令和4年2月28日現在)(単位:人)

区分	運動部	文化部	未加入者	計	
部(クラブ)数	4	0		4	
男子	1年	0	7	7	
	2年	1	2	3	
	3年	3	8	11	
	計(A)	4	17	21	
	構成比%	19.0	0.0	81.0	100.0
女子	1年	0	12	12	
	2年	0	2	2	
	3年	2	4	6	
	計(B)	2	18	20	
	構成比%	10.0	0.0	90.0	100.0
(A+B)	6	0	35	41	
合計	構成比%	14.6	0.0	85.4	100.0

高等部

(令和4年2月28日現在)(単位:人)

区分	運動部	文化部	未加入者	計	
部(クラブ)数	4	0		4	
男子	1年	0	3	3	
	2年	2	5	7	
	3年	1	3	4	
	計(A)	3	11	14	
	構成比%	21.4	0.0	78.6	100.0
女子	1年	1	5	6	
	2年	3	2	5	
	3年	1	1	2	
	計(B)	5	8	13	
	構成比%	38.5	0.0	61.5	100.0
(A+B)	8	0	19	27	
合計	構成比%	29.6	0.0	70.4	100.0

3 障害別児童生徒数

(令和4年2月28日現在)(単位:人)

区 分		1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	学級数
小学部	単一障害			2			2	4	2
	重複障害	17	13	8	10	5	15	68	27
	肢体重複								
	合 計	17	13	10	10	5	17	72	29
中学部	単一障害	2	1	6	/	/	/	9	2
	重複障害	17	4	11	/	/	/	32	13
	肢体重複				/	/	/		
	合 計	19	5	17	/	/	/	41	15
高等部	単一障害	2	5	1	/	/	/	8	3
	重複障害	7	7	7	/	/	/	21	8
	肢体重複				/	/	/		
	合 計	9	12	8	/	/	/	29	11

4 起因疾患別児童生徒数

(令和4年2月28日現在)(単位:人)

区 分	脳性まひ	水頭症	その他の 脳性疾患	二 分 脊 椎	脊 髄 損 傷	進行性筋 ジストロ フィ	その他の 筋疾患	先天性 形成不全	その他	合 計
小学部	18	2	11	2		2			19	54
中学部	10		8	1		6		1	7	33
高等部	14			4	1		1	1	6	27
訪 問	9		11						8	28
計	51	2	30	7	1	8	1	2	40	142

預 金 調

(令和4年2月28日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高(円)	摘 要
静岡銀行 三方が原支店	無利息型 普通預金	0022088	静岡県立西部特別支援学校 資金前渡者 村松 尚美	10,000	交際費・給与等
静岡銀行 三方が原支店	無利息型 普通預金	0246631	(自振口)静岡県立西部特別支援学校 資金前渡者 村松 尚美	0	公共料金等引落
静岡銀行 三方が原支店	無利息型 普通預金	0580707	静岡県立西部特別支援学校 奨励費代理受領者 村松 尚美	0	特別支援教育就学 奨励費
残 高 合 計				10,000	

郵 券 等 受 払 調

(令和4年2月28日現在)
(単位：枚、円)

区分	種類	令和2年度						令和3年度						差引現在高		摘 要
		繰越		受入		払出		繰越		受入		払出				
		枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	
郵券	2円券	20	40	0	0	18	36	2	4	0	0	2	4	0	0	文書等郵送用
	10円券	38	380	0	0	8	80	30	300	0	0	26	260	4	40	
	82円券	20	1,640	0	0	20	1,640	0	0	0	0	0	0	0	0	
	84円券	0	0	60	5,040	60	5,040	0	0	155	13,020	138	11,592	17	1,428	
	94円券	0	0	40	3,760	9	846	31	2,914	0	0	24	2,256	7	658	
	120円券	9	1,080	20	2,400	10	1,200	19	2,280	0	0	9	1,080	10	1,200	
	140円券	0	0	20	2,800	20	2,800	0	0	20	2,800	0	0	20	2,800	
計		/	3,140	/	14,000	/	11,642	/	5,498	/	15,820	/	15,192	/	6,128	
収入印紙	500円券	0	0	1	500	1	500	0	0	1	500	1	500	0	0	安全運転管理者講習会講習手数料用
	4,000円券	0	0	1	4,000	1	4,000	0	0	1	4,000	1	4,000	0	0	
計		/	0	/	4,500	/	4,500	/	0	/	4,500	/	4,500	/	0	

材 料 品 受 払 調

(令和 2 年度)

区分 品名	元 年 度						2 年 度						差引現在高	摘 要	
	繰 越		受 入		払 出		繰 越		受 入		払 出				
	数量	金 額	数量	金 額	数量	金 額	数量	金 額	数量	金 額	数量	金 額			数量
布	枚 0	円 0	枚 27	円 13,421	枚 27	円 13,421	枚 0	円 0	枚 0	円 0	枚 0	円 0	枚 0	円 0	
紙	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
牛革	0	0	1	36,283	1	36,283	0	0	1	38,439	1	38,439	0	0	
木材	0	0	63	11,768	63	11,768	0	0	0	0	0	0	0	0	
計	0	0	91	61,472	91	61,472	0	0	1	38,439	1	38,439	0	0	

材 料 品 受 払 調

(令和 4 年 2 月 28 日現在)

区分 品名	2 年 度						3 年 度						差引現在高	摘 要	
	繰 越		受 入		払 出		繰 越		受 入		払 出				
	数量	金 額	数量	金 額	数量	金 額	数量	金 額	数量	金 額	数量	金 額			数量
布	枚 0	円 0	枚 0	円 0	枚 0	円 0	枚 0	円 0	枚 6	円 5,060	枚 6	円 5,060	枚 0	円 0	
紙	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
牛革	0	0	1	38,439	1	38,439	0	0	1	37,683	1	37,683	0	0	
木材	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計	0	0	1	38,439	1	38,439	0	0	7	42,743	7	42,743	0	0	

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)		
					令和元年度	令和2年度	左うち、令和元年度からの繰越額分
(13) 委託料	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費	140,616	0	/
	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	10,731,681	11,940,251	
	一般会計	教育費	学校教育費	健康体育費	12,613,536	11,846,386	
計					23,485,833	23,786,637	0
(15) 工事請負費	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費	0	1,166,000	
計					0	1,166,000	0
(17) 公有財産購入費					0	0	
計					0	0	0
(18) 備品購入費	一般会計	教育費	教育委員会費	教育総務費	0	96,800	/
	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費	0	1,164,900	
	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	2,440,500	2,901,996	
計					2,440,500	4,163,696	0
(19) 負担金、補助金及び交付金	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費	0	36,300	/
	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	92,500	54,500	
計					92,500	90,800	0
(22) 補償、補填及び賠償金					0	0	
計					0	0	0

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和4年2月28日現在)

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)	
					令和元年度	令和2年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	10,896,875	0
	一般会計	教育費	学校教育費	健康体育費	9,271,625	0
計					20,168,500	0
(14) 工事請負費					0	0
計					0	0
(16) 公有財産購入費					0	0
計					0	0
(17) 備品購入費	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	1,293,490	0
計					1,293,490	0
(18) 負担金、補助金及び交付金	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費	1,000	
	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	61,000	0
計					62,000	0
(21) 補償、補填及び賠償金					0	0
計					0	0

余 白

委託料に関する調

(令和2年度)

整理 番号	委 託 業務名	受託者	当 初 設計金額	契 約 金 額			契約 締結 方法	契約 期間	支 出 年月日	金 額	委託業務 の内容	摘要
				当初額	変 更 増減額	計						
1	スクールバス運行管理業務	大新東(株)静岡営業所	32,682,124	31,680,000	-149,849	31,530,151	一般	2.4.1 ～ 5.3.31	(累計金額) 2.5.29 2.6.30 2.7.31 2.8.31 2.9.30 2.10.30 2.11.30 2.12.25 3.1.29 3.2.26 3.3.31 3.4.30 小計	880,000 880,000 880,000 880,000 880,000 880,000 880,000 880,000 880,000 880,000 880,000 730,151 10,410,151	運行管理業務 スクールバス N:2台 業務日数 626日	R2長期
2	学校給食業務	シダックス大新東・ヒューマンサービス(株)	15,391,870	12,633,600	-6,339 140,736	12,767,997	一般	1.8.1 ～ 2.7.31	(累計金額) 2.5.29 2.6.30 2.7.31 2.8.31 小計	(8,403,261) 1,056,000 1,056,000 1,056,000 1,196,736 4,364,736	給食の調理 及び主食・ 副食配膳業 務 給食実施日数 157日	R1長期
3	学校給食業務	(株)双葉利修庵	39,863,008	33,184,800	0	33,184,800	一般	2.8.3 ～ 5.7.31	(累計金額) 2.9.30 2.10.30 2.11.30 2.12.25 3.1.29 3.2.26 3.3.31 3.4.30 小計	921,800 921,800 921,800 921,800 921,800 921,800 921,800 921,800 7,374,400	給食の調理 及び主食・ 副食配膳業 務 給食実施日数 587日	R2長期
4	エレベーター保守点検業務	三菱電機ビルテクノサービス(株)中部支社静岡支店	1,863,120	1,478,400	0	1,478,400	随契	2.4.1 ～ 3.3.31	2.5.29 2.6.30 2.7.31 2.8.31 2.9.30 2.10.30 2.11.30 2.12.25 3.1.29 3.2.26 3.3.31 3.4.30 小計	88,000 88,000 184,525 88,000 88,000 184,525 88,000 88,000 220,825 88,000 88,000 184,525 1,478,400	エレベーターの保守 管理業務 エレベーター N:2台 遠隔点検12回 保守点検4回 定期点検1回	随契2号 (不適)
5	産業廃棄物収集運搬及び処分業務	(株)リサイクルクリーン	51,700	51,700	0	51,700	随契	2.7.31 ～ 2.9.30	2.9.29	51,700	産業廃棄物 収集運搬及 び処分業務	随契1号 (少額)
6	産業廃棄物収集運搬及び処分業務	(株)太平洋サービス	53,625	53,625	0	53,625	随契	2.8.3 ～ 2.10.9	2.9.25	53,625	産業廃棄物 収集運搬及 び処分業務 (ダストラップ)	随契1号 (少額)
7	産業廃棄物収集運搬及び処分業務	(株)太平洋サービス	53,625	53,625	0	53,625	随契	3.2.8 ～ 3.3.30	3.3.23	53,625	産業廃棄物 収集運搬及 び処分業務 (ダストラップ)	随契1号 (少額)
	事務関係 計	7件								23,786,637		
	合 計	7件								23,786,637		

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
参考1	自家用電気工作物保安管理業務	遠鉄アシスト㈱		円	円	円		2.4.1 ～ 3.3.31			自家用電気工作物 月次点検5回 年次点検1回	浜松城北工業高校
参考2	浄化槽保守点検業務	東名興産㈱		2,793,010	0	2,793,010		2.4.1 ～ 3.3.31			し尿浄化槽 N:2基 基準点検 4回 基準外点検 8回 薬物投入 12回	新居高校
参考3	可燃物収集運搬処分業務	環境保全㈱		運搬料1回 407円 処分料1kg 13.2円	0	運搬料1回 407円 処分料1kg 13.2円		2.4.7 ～ 3.3.31			可燃ごみの処理業務 開校日は毎日 8月は月5回	浜松大平台高校 単価契約
参考4	プール浄化装置保守点検業務	清化工業㈱		983,400	0	983,400		2.4.9 ～ 2.11.30			プール浄化装置保守点検	浜松東高校
参考5	建築物環境衛生管理業務	㈱シーピーエム		6,564,910	0	6,564,910		2.4.1 ～ 3.3.31			建築物環境衛生管理	浜松西高校
参考6	消防用設備保守点検業務	静岡県消防設備保守点検業協同組合		17,160,000	184	17,160,184		2.4.1 ～ 3.3.31			自動火災報知設備、防排煙設備、屋内消火栓設備、非常用放送設備、誘導灯設備、消火器、自家発電設備 機器点検1回 総合点検1回	浜松湖北高校
参考7	建築基準法第12条に基づく点検業務	山口一級建築士事務所		4,400,000	0	4,400,000		2.9.15 ～ 3.1.25			建築基準法第12条に基づく点検	浜北西高校
参考8	学校警備業務	セコム㈱		10,164,000	0	10,164,000		1.10.1 ～ 6.9.30			機械警備業務	浜松工業高校 R1長期
	計	8件										

委託料に関する調

(令和3年度)
(令和4年2月28日現在)

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
1	(事務関係) スクールバス運行管理業務	大新東(株)静岡営業所	32,682,124	31,680,000	-149,849	31,530,151	一般	2.4.1 ～ 5.3.31	(累計金額) 3.5.31 3.6.30 3.7.30 3.8.31 3.9.30 3.10.29 3.11.30 3.12.27 4.1.31 4.2.28	円 (10,410,151) 880,000 880,000 880,000 880,000 880,000 880,000 880,000 880,000 880,000 880,000 880,000 880,000	運行管理業務 スクールバス N:2台 業務日数 626日	R2長期
									小計	8,800,000		
2	学校給食業務	(株)双葉利修庵	39,863,008	33,184,800	0	33,184,800	一般	2.8.3 ～ 5.7.31	(累計金額) 3.5.31 3.6.30 3.7.30 3.8.31 3.9.30 3.10.29 3.11.30 3.12.27 4.1.31 4.2.28	(7,374,400) 921,800 921,800 921,800 921,800 921,800 921,800 921,800 921,800 921,800 921,800	給食の調理 及び主食・ 副食配膳業 務 給食実施日数 587日	R2長期
									小計	9,218,000		
3	エレベーター保守点検業務	三菱電機(株)リサーチサービス(株)中部支社静岡支店	1,723,997	1,478,400	0	1,478,400	随契	3.4.1 ～ 4.3.31	3.5.31 3.6.30 3.7.30 3.8.31 3.9.30 3.10.29 3.11.30 3.12.27 4.1.31 4.2.28	88,000 88,000 184,525 88,000 88,000 184,525 88,000 88,000 220,825 88,000	エレベーターの保守 管理業務 エレベーター N:2台 遠隔点検12回 保守点検4回 定期点検1回	随契2号 (不適)
									小計	1,205,875		
4	産業廃棄物収集運搬及び処分業務	(株)大洋サービス	53,625	53,625	0	53,625	随契	3.7.30 ～ 3.9.30	3.9.29	53,625	産業廃棄物 収集運搬及 び処分業務 (ガラスラップ)	随契1号 (少額)
5	ガスヒートポンプエアコン点検業務	つばい工業(株)	896,500	891,000	0	891,000	随契	3.8.2 ～ 3.10.31	3.11.30	891,000	ガスヒート ポンプエ アの点検 調整	随契1号 (少額)
6	産業廃棄物収集運搬及び処分業務	(株)大洋サービス	53,625	53,625	0	53,625	随契	4.2.1 ～ 4.3.31			産業廃棄物 収集運搬及 び処分業務 (ガラスラップ)	随契1号 (少額)
7	産業廃棄物収集運搬及び処分業務	(株)環吉	99,000	99,000	0	99,000	随契	4.2.21 ～ 4.3.31			産業廃棄物 収集運搬及 び処分業務	随契1号 (少額)
	事務関係計	7件								20,168,500		
	合計	7件								20,168,500		

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
参考1	自家用電気工作物保安管理業務	遠鉄アシスト㈱		円 2,745,160	円 0	円 2,745,160		3.4.1 ～ 4.3.31			自家用電気工作物 月次点検5回 年次点検1回	浜松城北工業高校
参考2	浄化槽保守点検業務	東名興産㈱		2,812,260	0	2,812,260		3.4.1 ～ 4.3.31			し尿浄化槽 N:2基 基準点検 4回 基準外点検 8回 薬物投入 12回	新居高校
参考3	可燃物収集運搬処分業務	環境保全㈱		運搬料1回 462円 処分料1kg 13.2円	0	運搬料1回 462円 処分料1kg 13.2円		3.4.6 ～ 4.3.31			可燃ごみの処理業務 開校日は毎月 8月は月5回	浜松大平台高校 単価契約
参考4	プール浄化装置保守点検業務	清化工業㈱		998,800	0	998,800		3.4.9 ～ 3.11.30			プール浄化装置保守点検	浜松東高校
参考5	建築物環境衛生管理業務	㈱シーピーエム		8,037,260	0	8,037,260		3.4.1 ～ 4.3.31			建築物環境衛生管理	浜松西高校
参考6	消防用設備保守点検業務	静岡県消防設備保守点検業協同組合		18,700,000	-277,090	18,422,910		3.4.1 ～ 4.3.31			自動火災報知設備、防排煙設備、屋内消火栓設備、非常用放送設備、誘導灯設備、消火器、自家発電設備 機器点検1回 総合点検1回	浜松湖北高校
参考7	建築基準法第12条に基づく点検業務	山口一級建築士事務所		3,080,000	0	3,080,000		3.9.15 ～ 4.1.25			建築基準法第12条に基づく点検	浜北西高校
参考8	学校警備業務	セコム㈱		10,164,000	0	10,164,000		1.10.1 ～ 6.9.30			機械警備業務	浜松工業高校 R1長期
	計	8件										

負担金支出調

(令和2年度)

番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	細江地区安全運転管理協会会費	細江地区安全運転管理協会会長	細江地区安全運転管理協会会則	安全運転管理者の充実強化、交通安全の実現に寄与	円 25,000	令和2年6月30日
2	中部地区特別支援学校肢体不自由教育校長会会費	中部地区特別支援学校肢体不自由教育校長会会長	中部地区特別支援学校肢体不自由教育校長会規約	肢体不自由教育の振興、管理運営に関する調査研究	8,000	令和2年7月22日
3	安全運転管理者講習手数料	静岡県安全運転管理協会	道路交通法	安全運転管理者に対する安全運転管理の講習	4,500	令和2年8月24日
4	全国特別支援学校肢体不自由教育校長会会費	全国特別支援学校肢体不自由教育校長会会長	全国特別支援学校肢体不自由教育校長会則	肢体不自由教育の振興を図るための調査研究	15,000	令和2年9月30日
5	第66回全国肢体不自由教育研究協議会参加費	第65回全国肢体不自由教育研究協議会青森大会実行委員長	第65回全国肢体不自由教育研究協議会開催要項	肢体不自由教育の充実と発展のための研究協議	2,000	令和2年10月9日
6	県立学校行事キャンセル料支援事業費補助金	児童生徒保護者	交付要綱	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、学校行事を中止したことに伴い支払ったキャンセル料等の助成	36,300	令和2年12月25日
計		6件	/	/	90,800	/

負担金支出調

(令和3年度)
(令和4年2月28日現在)

番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	細江地区安全運転管理協会会費	細江地区安全運転管理協会会長	細江地区安全運転管理協会会則	安全運転管理者の充実強化、交通安全の実現に寄与	円 25,000	令和3年6月30日
2	第64回全国特別支援学校肢体不自由教育教頭研究協議会参加費	第64回全国特別支援学校肢体不自由教育教頭研究協議会事務局	第64回全国特別支援学校肢体不自由教育教頭研究協議会開催要項	肢体不自由教育の諸問題への対応のための研究協議	3,000	令和3年6月30日
3	中部地区特別支援学校肢体不自由教育校長会会費	中部地区特別支援学校肢体不自由教育校長会会長	中部地区特別支援学校肢体不自由教育校長会規約	肢体不自由教育の振興、管理運営に関する調査研究	8,000	令和3年7月9日
4	学研・小論文対策研究会参加費	株式会社学研教育みらい高大教育事業部	学研・小論文対策研究会の案内	新学習指導要領に則した入試対策の小論文学習	1,000	令和3年7月16日
5	全国特別支援学校肢体不自由教育校長会会費	全国特別支援学校肢体不自由教育校長会会長	全国特別支援学校肢体不自由教育校長会会則	肢体不自由教育の振興を図るための調査研究	15,000	令和3年7月30日
6	全国特別支援学校肢体不自由教育教頭会会費	全国特別支援学校肢体不自由教育教頭会会長	全国特別支援学校肢体不自由教育教頭会規約	肢体不自由教育の向上に寄与する調査研究	4,500	令和3年7月30日
7	第67回全国肢体不自由教育研究協議会参加費	第67回全国肢体不自由教育研究協議会富山大会実行委員長	第67回全国肢体不自由教育研究協議会開催要項	肢体不自由教育の充実と発展のための研究協議	1,000	令和3年9月16日
8	安全運転管理者講習受講料	静岡県安全運転管理協会	道路交通法	安全運転管理者に対する安全運転管理の講習	4,500	令和4年1月19日
合 計		8件			62,000	

建 築 工

整理番号	予 算 目	工 事 名	工 事 箇 所	当 初 設計金額	契 約 金	
					当 初 額	変 更 増減額
1	教 育 管理費	令和2年度静岡県立西部特別支援学校バス車庫スロープ改修工事	浜松市北区根洗町地内	円 1,331,000	円 1,166,000	円
		合 計	1 件	1,331,000	1,166,000	

(参考)

整理番号	予 算 目	工 事 名	工 事 箇 所	当 初 設計金額	契 約 金	
					当 初 額	変 更 増減額
1	教 育 管理費	令和2年度静岡県立下田高等学校他114校校内LAN整備工事	下田市蓮台寺地内外	円 499,730,000	円 461,571,220	円 33,421,300
		合 計	1 件	499,730,000	461,571,220	33,421,300

事 調

(令和2年度)

額	契約締結方法	受注者	着手 完成(予定) 年 月 日	支出済額	工事概要	公有財産 台 帳	摘 要
計							
円 1,166,000	随契	㈱テックダイナ	R3.1.19 ~ R3.3.16	円 1,166,000	バス車庫のスロープの 一部撤去及び補修	—	随契1号(少額) 令達年月日 令和3年1月4日 最終支払年月日 令和3年4月2日
1,166,000				1,166,000			

額	契約締結方法	受注者	着手 完成(予定) 年 月 日	支出済額	工事概要	公有財産 台 帳	摘 要
計							
円 494,992,520	一般	西日本電信電話 ㈱静岡支店	R2.8.5 ~ R3.3.26	円 494,992,520	校内LAN整備工事一式 ・フロアスイッチ更新 ・教室への無線LANアクセスポイント設置 ・電源キャビネット設置 (特支・高校中等部のみ)	—	教育部 教育施設課
494,992,520				494,992,520			

公 有 財 産 調

(令和2年度)

区 分	令和2年3月31日 現 在		増		減		令和3年3月31日 現 在		摘 要
	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	
行政財産		千円 2,680,256		千円		千円 94,114		千円 2,586,142	
土 地	m ² 18,616.23	238,961	m ²				m ² 18,616.23	238,961	
立木竹	本 79	1,312	本		本		本 79	1,312	
建 物	6,759.94	2,129,789				71,855	6,759.94	2,057,934	
	9,947.09				9,947.09				
工作物	個 102	310,194	個		個	22,259	個 102	287,935	
公有財産に 準ずるもの		268						268	
電話 加入権	件 5	268	件				件 5	268	

「令和3年度中増減なし」

借地借家等調

(令和4年2月28日現在)

整理 番号	区 分	種 別	所在地	地 目		数量又 は面積	借 料		契 約 期 間	所有者又 は契約者 氏名	用 途
				台 帳	現 況		単 価	年 額			
1	土地	学校 敷地	浜松市北区 根洗町597-1	河川敷	歩道	0.13m 0.09㎡		無償	2.4.1 ～ 7.3.31	浜松市長	排水管(調 整池放水管 接続)
2	土地	学校 敷地	浜松市北区 根洗町597-1	河川敷	歩道	0.13m 0.05㎡		無償	2.4.1 ～ 7.3.31	浜松市長	排水管(調 整池放水管 接続)
3	土地	学校 敷地	浜松市北区 根洗町597-1	道路敷	歩道	1.87m 0.67㎡		無償	2.4.1 ～ 7.3.31	浜松市長	排水管(調 整池放水管 接続)
4	土地	学校 敷地	浜松市北区 根洗町597-1	道路敷	歩道	1.76m 1.23㎡		無償	2.4.1 ～ 7.3.31	浜松市長	排水管(調 整池放水管 接続)
	計					3.89m 2.04㎡					

事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調

(令和3年度)
(令和4年2月28日現在)

区分	事業名又は 契約名	内 容	契約額	(契約額の年度別内訳)				
				令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
長期 継続 契約	学校給食業務 委託契約	完全給食による主食・ 副食の調理及び主食・ 副食配膳業務 (契約日) 令和元年8月1日	12,767,997	円 8,403,261	円 4,364,736	円	円	円
長期 継続 契約	学校給食業務 委託契約	完全給食による主食・ 副食の調理及び主食・ 副食配膳業務 (契約日) 令和2年8月3日	33,184,800		7,374,400	11,061,600	11,061,600	3,687,200
長期 継続 契約	スクールバス 運行管理業務 委託契約	スクールバス2台の運 行管理業務 (契約日) 令和2年4月1日	31,530,151		10,410,151	10,560,000	10,560,000	

行政財産貸付・使用許可調

(令和4年2月28日現在)

整理 番号	区分	種別	所在地	地目		数量又 は面積	貸付料又は 使用料		貸付又は 使用許可 期間	貸付又は使用 許可を受けた 者の氏名	貸付・使用 許可目的
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	学校 敷地	浜松市 北区根洗町 597-1	学 校 用 地	学 校 敷 地	電柱 4本 支線 3本	1,500	円 10,500	2. 4. 1 ～ 7. 3. 31	中部電力(株)浜松 営業所 細江サービスステーション 所長	電力供給
2	土地	学校 敷地	浜松市 北区根洗町 597-1	学 校 用 地	学 校 敷 地	電柱 5本 支線 2本	1,500	10,500	2. 4. 1 ～ 7. 3. 31	西日本電信電話 (株)静岡支店長	電気通信線 路設備維持
3	土地	学校 敷地	浜松市 北区根洗町 597-1	学 校 用 地	学 校 敷 地	43.75㎡		17,670	3. 4. 1 ～ 4. 3. 31	遠州鉄道(株) 代表取締役	バス停留所
4	土地	学校 敷地	浜松市 北区根洗町 597-1	学 校 用 地	学 校 敷 地	0.25㎡		100	3. 4. 1 ～ 4. 3. 31	湖東商工会会長	外灯
5	土地	学校 敷地	浜松市 北区根洗町 597-1	学 校 用 地	学 校 敷 地	支線 2本	1,500	3,000	2. 4. 1 ～ 7. 3. 31	西日本電信電話 (株)静岡支店長	電気通信線 路設備維持
合計								41,770			

主 要 備 品 調

(令和4年2月28日現在)

整理 番号	区 分		品 名・規 格	利 用 状 況	購 入 年 月	購入金額
	大・中	小				
1	01-13	調理器具	真空冷却機 ホテルパンラック仕様	毎日(年間240日) 調理に使用	平成29年 3月	2,374,380円
2	01-13	加熱器具	コンビオープン ホテルパン1/1	毎日(年間240日) 調理に使用	平成29年 3月	1,940,328
3	01-13	冷蔵(凍)庫	パススルー冷蔵庫 両面ガラス扉	毎日(年間365日) 食材保管に使用	平成29年 3月	1,828,980
4	10-99	その他の教育用器具	わいわい工場 本体、安全マット	毎日(年間200日) 自立活動授業に使用	平成20年 2月	1,669,500
5	02-01	パーソナルコンピュータ一式	県立学校ICT環境整備機器一式	週3回(年間40週) 授業に使用	令和2年 1月	1,624,425
6	01-13	食品食器洗浄機	ドアタイプ自動食器洗浄機	毎日(年間240日) 食器洗浄に使用	平成29年 3月	1,557,684
7	01-04	その他の収納保管庫	収納保管庫 W5,440×D450×H2,500	毎日(年間365日) 書類の保管に使用	平成29年 3月	1,542,240
8	10-99	その他の教育用器具	4人用シーソー 本体、安全マット	毎日(年間200日) 自立活動授業に使用	平成18年 3月	1,470,000
9	10-99	その他の教育用器具	2連ブランコ 本体、安全マット	毎日(年間200日) 自立活動授業に使用	平成19年 2月	1,176,000
10	01-13	食品食器洗浄機	電気式食器消毒保管機 5段式	毎日(年間365日) 食器洗浄、保管に使用	平成29年 3月	1,165,320
11	01-13	冷蔵(凍)庫	冷凍冷蔵庫 2室冷蔵、2室冷凍	毎日(年間365日) 食材保管に使用	平成29年 3月	1,067,688
12	10-07	鍵盤楽器	グランドピアノ G5E	随時(年間40日) 学校行事に使用	昭和53年 12月	790,000
13	01-13	冷蔵(凍)庫	冷蔵庫 603L	毎日(年間365日) 食材保管に使用	平成29年 3月	748,656
14	01-04	移動書庫	5列書庫 2030×1000×490cm	毎日(年間365日) 書類の保管に使用	平成9年 8月	747,600
15	01-04	下駄箱	来客用下足入れ W2,890×D720×H1,600mm	毎日(年間365日) 来客、職員下足収納に使用	平成29年 3月	742,500
16	01-04	下駄箱	来客用下足入れ W2,890×D720×H1,600mm	毎日(年間365日) 来客、職員下足収納に使用	平成29年 3月	742,500
17	01-04	移動書庫	移動棚 N954AMZ210	毎日(年間365日) 書類の保管に使用	平成14年 1月	732,900
18	01-04	書類収納庫	書類収納庫 ビジネスウォールNS	毎日(年間365日) 書類の保管に使用	平成13年 3月	728,175
19	06-06	炉	電気式横扉陶芸窯 LK-6型	年間6回程度 授業に使用	平成29年 3月	718,200
20	01-13	ユニットキッチン	下処理用3層シンク W1800×D750×H850	毎日(年間240日) 食器の洗浄に使用	平成29年 3月	670,788

生産物受払調

(令和3年2月28日現在)

区分	品名(単位)	ボックスティッシュケース(中・布)				ボックスティッシュケース(中・布)				ペンケース(中・布)				きんちやく袋(中・布)				
		30年度	元年度	R3.2.	差	30年度	元年度	R3.2.	差	30年度	元年度	R3.2.	差	30年度	元年度	R3.2.	差	
		a	b	28現在	b-a	a	b	28現在	b-a	a	b	28現在	b-a	a	b	28現在	b-a	
	数量(ア)	個				個				個				個				
		0	9	0	9	0	13	0	13	10	0	0	△ 10	15	25	0	10	
受高	前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	本年度生産高(イ)	0	9	0	9	0	13	0	13	10	0	0	△ 10	15	25	0	10	
	計	0	9	0	9	0	13	0	13	10	0	0	△ 10	15	25	0	10	
	単位数量(イ/ア)		1		1		1		1	1			1	1	1		1	
	同前年比(%) (b-a)/a×100	/				/				/				/				
		100				100				△ 100				67				
払高	売払数量	0	9	0	9	0	13	0	13	10	0	0	△ 10	15	25	0	10	
	売払金額	0	3,600	0	3,600	0	1,950	0	1,950	2,500	0	0	△ 2,500	3,000	7,500	0	4,500	
	非売品数量	分類換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		管理換 その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	9	0	0	0	13	0	13	10	0	0	△ 10	15	25	0	10	
	残高又は繰越数量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	摘要																	

区分	品名(単位)	カレンダー(中・紙)				メモ帳小(高・紙)				メモ帳大(高・紙)				ポチ袋(高・紙)				
		30年度	元年度	R3.2.	差	30年度	元年度	R3.2.	差	30年度	元年度	R3.2.	差	30年度	元年度	R3.2.	差	
		a	b	28現在	b-a	a	b	28現在	b-a	a	b	28現在	b-a	a	b	28現在	b-a	
	数量(ア)	個				個				個				個				
		40	30	0	△ 10	0	0	30	0	0	0	30	0	0	0	15	0	
受高	前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	本年度生産高(イ)	40	30	0	△ 10	0	0	30	0	0	0	30	0	0	0	15	0	
	計	40	30	0	△ 10	0	0	30	0	0	0	30	0	0	0	15	0	
	単位数量(イ/ア)	1	1		1		1		1		1		1		1		1	
	同前年比(%) (b-a)/a×100	/				/				/				/				
		△ 25				100				100				100				
払高	売払数量	40	30	0	△ 10	0	0	30	0	0	0	30	0	0	0	15	0	
	売払金額	5,000	4,500	0	△ 500	0	0	3,000	0	0	0	6,000	0	0	0	1,500	0	
	非売品数量	分類換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		管理換 その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	40	30	0	△ 10	0	0	30	0	0	0	30	0	0	0	15	0	
	残高又は繰越数量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	摘要																	

生産物受払調

(令和3年2月28日現在)

品名(単位)		ブックカバー(高・布)				ファスナー付ポーチ(高・布)				パッチポーチ(高・布)				キーホルダー(高・木)				
		30年度 a	元年度 b	R3.2. 28現在	差 b-a	30年度 a	元年度 b	R3.2. 28現在	差 b-a	30年度 a	元年度 b	R3.2. 28現在	差 b-a	30年度 a	元年度 b	R3.2. 28現在	差 b-a	
区分	数量(ア)	個				個				個				個				
		30	0	0	△ 30	20	0	0	△ 20	0	20	0	20	80	0	0	△ 80	
受高	前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	本年度生産高(イ)	30	0	0	△ 30	20	0	0	△ 20	0	20	0	20	80	0	0	△ 80	
	計	30	0	0	△ 30	20	0	0	△ 20	0	20	0	20	80	0	0	△ 80	
単位数量(イ/ア)		1			1	1			1	1			1	1			1	
同前年比(%) (b-a)/a×100		△ 100				△ 100				100				△ 100				
払高	売払数量	30	0	0	△ 30	20	0	0	△ 20	0	20	0	20	80	0	0	△ 80	
	売払金額	10,500	0	0	△ 10,500	6,000	0	0	△ 6,000	0	8,000	0	8,000	12,000	0	0	△ 12,000	
	非売品数量	分類換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		管理換 その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	30	0	0	△ 30	20	0	0	△ 20	0	20	0	20	80	0	0	△ 80	
残高又は繰越数量		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
摘要																		

品名(単位)		ペン立て(高・木)				卓上カレンダー(高・木)				コースター(高・木)				ボックスコイン(高・革)				
		30年度 a	元年度 b	R3.2. 28現在	差 b-a	30年度 a	元年度 b	R3.2. 28現在	差 b-a	30年度 a	元年度 b	R3.2. 28現在	差 b-a	30年度 a	元年度 b	R3.2. 28現在	差 b-a	
区分	数量(ア)	個				個				個				個				
		0	20	0	20	40	0	0	△ 40	0	20	0	20	0	20	0	20	
受高	前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	本年度生産高(イ)	0	20	0	20	40	0	0	△ 40	0	20	0	20	0	20	0	20	
	計	0	20	0	20	40	0	0	△ 40	0	20	0	20	0	20	0	20	
単位数量(イ/ア)		1			1	1			1	1			1	1			1	
同前年比(%) (b-a)/a×100		100				△ 100				100				100				
払高	売払数量	0	20	0	20	40	0	0	△ 40	0	20	0	20	0	20	0	20	
	売払金額	0	10,000	0	10,000	12,000	0	0	△ 12,000	0	4,000	0	4,000	0	10,000	0	10,000	
	非売品数量	分類換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		管理換 その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	20	0	20	40	0	0	△ 40	0	20	0	20	0	20	0	20	
残高又は繰越数量		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
摘要																		

生産物受払調

(令和3年2月28日現在)

区分		ストラップ (高・革)				ペンケース (高・革)				コインケース (高・革)				結束バンド (高・革)				
		30年度 a	元年度 b	R3.2. 28現在	差 b-a	30年度 a	元年度 b	R3.2. 28現在	差 b-a	30年度 a	元年度 b	R3.2. 28現在	差 b-a	30年度 a	元年度 b	R3.2. 28現在	差 b-a	
数量 (ア)		個				個				個				個				
		60	60	0	0	40	30	15	△ 10	0	0	25	0	0	0	16	0	
受高	前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	本年度生産高(イ)	60	60	0	0	40	30	15	△ 10	0	0	25	0	0	0	16	0	
	計	60	60	0	0	40	30	15	△ 10	0	0	25	0	0	0	16	0	
単位数量(イ/ア)		1	1			1	1	1	1			1				1		
同前年比 (%) (b-a)/a×100		0				△ 25				100				100				
払高	売払数量	60	60	0	0	40	30	15	△ 10	0	0	25	0	0	0	16	0	
	売払金額	18,000	18,000	0	0	24,000	19,500	12,750	△ 4,500	0	0	15,000	0	0	0	3,200	0	
	非売品 数量	分類換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		管理換 その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	60	60	0	0	40	30	15	△ 10	0	0	25	0	0	0	16	0	
残高又は繰越数量		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
摘 要																		

区分		小物入れ小 (高・革)				小物入れ大 (高・革)				計				
		30年度 a	元年度 b	R3.2. 28現在	差 b-a	30年度 a	元年度 b	R3.2. 28現在	差 b-a	30年度 a	元年度 b	R3.2. 28現在	差 b-a	
数量 (ア)		個				個				個				
		0	0	15	0	0	0	15	0	335	247	161	△ 88	
受高	前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	本年度生産高(イ)	0	0	15	0	0	0	15	0	335	247	161	△ 88	
	計	0	0	15	0	0	0	15	0	335	247	161	△ 88	
単位数量(イ/ア)				1				1		1	1	1	1	
同前年比 (%) (b-a)/a×100		100				100				△ 26				
払高	売払数量	0	0	15	0	0	0	15	0	335	247	161	△ 88	
	売払金額	0	0	6,750	0	0	0	8,250	0	93,000	87,050	56,450	△ 5,950	
	非売品 数量	分類換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		管理換 その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	15	0	0	0	15	0	335	247	161	△ 88	
残高又は繰越数量		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
摘 要														

余 白

事務事業及び予算の執行実績（別冊）

静岡県立西部特別支援学校

職 員 調

(令和4年4月1日現在)

整理 番号	職 名	氏 名	事 務 分 担	住 所	勤 務 年 数	摘 要
1	校長	村松 尚美		□□□	□年 □月	□□□□□□
2	副校長	三上 英		□□□	□年 □月	□□□□□□
3	教頭	飯塚 昌夫		□□□	□年 □月	□□□□□□
4	事務長	杉浦 博		□□□	□年 □月	□□□□□□
5	教諭	中田 達教	中学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
6	教諭	青木 満美	訪問教育	□□□	□年 □月	□□□□□□
7	教諭	田井 陽子	中学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
8	教諭	杉浦 規仁	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
9	教諭	林 美佐	中学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
10	教諭	鈴木 道子	訪問教育	□□□	□年 □月	□□□□□□
11	教諭	村松 理保子	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
12	教諭	井口 靖子	訪問教育	□□□	□年 □月	□□□□□□
13	教諭	田中 依子	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
14	教諭	鈴木 正樹	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
15	教諭	久野 日出夫	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
16	教諭	本田 恵子	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
17	教諭	梅原 由子	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
18	教諭	刑部 智子	訪問教育	□□□	□年 □月	□□□□□□
19	教諭	鈴木 理世	訪問教育	□□□	□年 □月	□□□□□□
20	教諭	大塚 暢明	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
21	教諭	高木 秀一	中学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
22	教諭	田中 由加里	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
23	教諭	安田 律子	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
24	教諭	山崎 仁美	中学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
25	教諭	市川 靖敏	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
26	教諭	阿部 雅野	小学部主事	□□□	□年 □月	□□□□□□
27	教諭	犬塚 佳恵	訪問教育	□□□	□年 □月	□□□□□□
28	教諭	長谷川 恵子	訪問教育	□□□	□年 □月	□□□□□□
29	教諭	神谷 美穂	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
30	教諭	岸 和美	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
31	教諭	伊藤 久美子	訪問教育	□□□	□年 □月	□□□□□□
32	教諭	矢部 規予	訪問教育	□□□	□年 □月	□□□□□□
33	教諭	山崎 真理子	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
34	教諭	松本 一美	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
35	教諭	前田 有俊	中学部主事	□□□	□年 □月	□□□□□□
36	教諭	竹内 早重美	中学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
37	教諭	齊藤 武明	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
38	教諭	松永 充孝	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
39	教諭	芦澤 正也	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
40	教諭	渡邊 孝史	中学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
41	教諭	宮本 貴	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
42	教諭	久保 成子	高等部主事	□□□	□年 □月	□□□□□□
43	教諭	星野 麻衣	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
44	教諭	黒田 麻里奈	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
45	教諭	溝本 仁美	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
46	教諭	村松 紗千子	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
47	教諭	堺 美由紀	中学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
48	教諭	内山 恵理子	中学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
49	教諭	伊熊 利仁	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
50	教諭	早津 あすか	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□

51	教諭	菊地 淳	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
52	教諭	塚本 勇気	中学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
53	教諭	渥美 明子	訪問教育	□□□	□年 □月	□□□□□□
54	教諭	平木 愛	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
55	教諭	舟澤 弓美子	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
56	教諭	後藤 明日美	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
57	教諭	河合 春奈	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
58	教諭	平田 友里恵	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
59	教諭	高橋 真紀	中学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
60	教諭	新村 美佐都	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
61	教諭	青嵐 雅文	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
62	教諭	小木 香奈美	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
63	教諭	後藤 歩	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
64	教諭	稲葉 奈津子	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
65	教諭	鈴木 悠記子	中学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
66	教諭	内山 茜	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
67	教諭	大瀬 拓実	中学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
68	教諭	宮地 大輔	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
69	教諭	大貫 由香里	訪問教育	□□□	□年 □月	□□□□□□
70	教諭	大場 研資	訪問教育	□□□	□年 □月	□□□□□□
71	教諭	伊藤 晃	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
72	教諭	村松 直美	中学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
73	教諭	延本 奨	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
74	教諭	丸山 かえで	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
75	教諭	黒田 真央	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
76	教諭	竹山 侑季	中学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
77	教諭	浅井 彩加	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
78	教諭	森本 燎平	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
79	教諭	高林 郁夫	中学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
80	教諭	松本 知久	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
81	教諭	大場 翼	中学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
82	教諭	鈴木 雄大	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
83	教諭	石垣 彩香	中学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
84	教諭	矢島 咲季	中学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
85	教諭	塩原 由梨奈	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
86	教諭	村井 皓紀	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
87	教諭	鎌田 彩矢佳	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
88	教諭	窪田 潤	中学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
89	教諭	中出 優花	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
90	教諭	平田 美優	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
91	教諭	泉澤 愛	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
92	教諭	木下 彩香	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
93	教諭	加藤 里菜	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
94	養護教諭	八木 暁子	養護	□□□	□年 □月	□□□□□□
95	養護教諭	小田 遥	養護	□□□	□年 □月	□□□□□□
96	栄養教諭	水野 清佳	給食	□□□	□年 □月	□□□□□□
97	主査	松井 紀人	会計・管財	□□□	□年 □月	□□□□□□
98	主任	坂田 瑠美	庶務・会計	□□□	□年 □月	□□□□□□
99	主事	宮脇 日菜子	庶務・会計	□□□	□年 □月	□□□□□□
				平均年教	□年 □月	

職 員 調

(令和4年4月1日現在)

整理 番号	職 名	氏 名	事 務 分 担	住 所	勤 務 年 数	摘 要
1	教諭(任)	永島 智枝子	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
2	教諭(任)	三重野 暁	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
3	教諭(任)	福村 夏奈	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
4	教諭(任)	花田 ヒロ子	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
5	教諭(任)	児玉 郁代	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
6	教諭(任)	三輪 昌世	中学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
7	教諭(任)	大場 千晶	訪問教育	□□□	□年 □月	□□□□□□
8	教諭(任)	成田 しのぶ	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
9	養護教諭(任)	大川 美穂	養 護	□□□	□年 □月	□□□□□□
10	教諭(臨)	川口 博明	訪問教育	□□□	□年 □月	□□□□□□
11	教諭(臨)	鈴木 有知	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
12	教諭(臨)	伊藤 直	中学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
13	教諭(臨)	松本 諭始	中学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
14	教諭(臨)	小林 良章	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
15	教諭(臨)	小原 和希	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
16	教諭(臨)	大谷 侑	中学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
17	教諭(臨)	馬淵 俊且	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
18	教諭(臨)	鈴木 大輝	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
19	教諭(臨)	鈴木 由彦	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
20	教諭(臨)	下出 沙織	中学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
21	教諭(任短)	伊藤 さよ子	訪問教育	□□□	□年 □月	□□□□□□
22	栄養士(臨)	中島 規恵子	給 食	□□□	□年 □月	□□□□□□
23	非常勤講師(看護)	野部 ルリ子	看 護	□□□	□年 □月	□□□□□□
24	非常勤講師(看護)	杉浦 貴久恵	看 護	□□□	□年 □月	□□□□□□
25	非常勤講師(看護)	松浦 恵	看 護	□□□	□年 □月	□□□□□□
26	非常勤講師(看護)	馬場 ひろみ	看 護	□□□	□年 □月	□□□□□□
27	非常勤講師(看護)	鈴木 弘江	看 護	□□□	□年 □月	□□□□□□
28	非常勤講師(看護)	藤田 由香	看 護	□□□	□年 □月	□□□□□□
29	非常勤労務職員	齋藤 規久子	校内介助	□□□	□年 □月	
30	非常勤労務職員	松井 もとみ	校内介助	□□□	□年 □月	
31	非常勤労務職員	鈴木やよい	校内介助	□□□	□年 □月	
32	非常勤労務職員	澤田 加代子	校内介助	□□□	□年 □月	
33	非常勤労務職員	岸本 みち子	バス介助	□□□	□年 □月	
34	非常勤労務職員	片桐 成夫	バス介助	□□□	□年 □月	
35	非常勤労務職員	中野 雅夫	用 務	□□□	□年 □月	
36	非常勤労務職員	柴田 弘孝	用 務	□□□	□年 □月	
37	非常勤労務職員	牧田 正男	コロナ対策業務	□□□	□年 □月	
38	非常勤労務職員	小出 由美子	コロナ対策業務	□□□	□年 □月	
39	非常勤労務職員	山口 美江	コロナ対策業務	□□□	□年 □月	
40	学校医	金子 寛	内 科	□□□	□年 □月	
41	学校医	浅井 竜彦	眼 科	□□□	□年 □月	
42	学校医	姜 洪仁	耳鼻科	□□□	□年 □月	
43	学校医	星野 裕信	整形外科	□□□	□年 □月	
44	学校医	清水 一徳	歯 科	□□□	□年 □月	
45	学校薬剤師	鈴木 愛		□□□	□年 □月	
46	健康管理医	森 厚嘉	産業医	□□□	□年 □月	

職員の年齢調

(令和4年4月1日現在)

年 齢	人 員	摘 要
20歳未満	0人	
20歳以上30歳未満	19	
30歳以上40歳未満	30	
40歳以上50歳未満	21	
50歳以上56歳未満	15	
56歳以上61歳未満	11	再任用職員1人
61歳以上	3	再任用職員3人
計	99	平均年齢 41.3歳

